

運転装置、室内装備の使い方

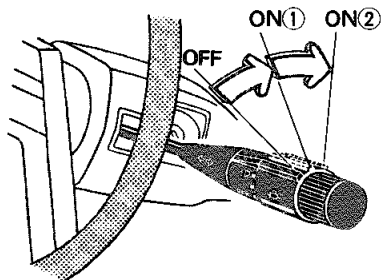
スイッチの使い方	22
ライト・スイッチ	22
方向指示レバー	23
フロント・ワイパー／ウォッシャー・スイッチ	23
前照灯クリーナー	24
リヤ・ワイパー／ウォッシャー・スイッチ	25
リヤ・ウインドウ・ガラス曇り取りスイッチ	26
計器照度調整スイッチ	27
フォグ・ランプ・スイッチ	27
駐車灯スイッチ	28
非常点滅灯スイッチ	28
運転装置の操作	28
エンジン・スイッチ(エンジンのかけかた)	28
エンジン・ヒーター	33
マニュアル・トランスミッション	34
オートマチック・トランスミッション	35
駐車ブレーキ	42
チルト・ステアリング(上下調整式ハンドル)	43
ミラー	43
オート・ドライブ(自動定速走行装置)	46
シートの調整	49
フロント・シート	49
シート・ヒーター	53
中央アーム・レスト(ひじかけ)	54
リヤ・シート	55
荷室	55
シート・ベルトの装着	57
フロント・シート・ベルト	57
リヤ・シート・ベルト	58

室内装備の使い方	61
時計	61
エンジン・キー照明	62
ドア・キー照明	62
室内灯	63
フロント・スポット・ライト	63
リヤ・スポット・ライト	63
バック・ドア灯	63
シガレット・ライター	64
灰皿	64
グローブ・ボックス(小物入れ)	65
フタ付きコンソール・ボックス(小物入れ)	66
ドア・ポケット	66
背もたれポケット	67
サン・バイザー(日よけ)	67
バニティ・ミラー(化粧ミラー)	67
クォーター・トリム・ボックス(小物入れ)	67
荷物固定ベルト	68
クルーズ・コンピューター(走行情報表示装置)	69
車体各部の開閉	77
フロント・ドア	77
リヤ・ドア	78
電磁式ドア施錠装置	79
電動ウインドウ	80
ボンネット	82
燃料タンク・キャップ	83
トランク	84
バック・ドア	84
サン・ルーフ	86



スイッチの 使い方

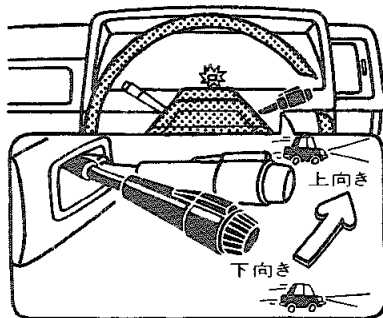
■ ライト・スイッチ



1. ツマミを回すと ON①, ON②の位置で、次の○印のランプが点灯します。

灯 火 名	ON①	ON②
前 照 灯	○	○
車 幅 灯, 尾 灯	○	○
番 号 灯	○	○
計 器 照 明 灯	○	○

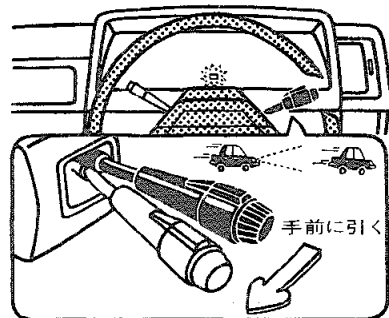
▶ 前照灯の上下切り替え



1. レバーを前方に動かすと前照灯が上向きになります。
2. 前照灯が上向きのときは、計器内の前照灯の上向き表示灯が点灯します。

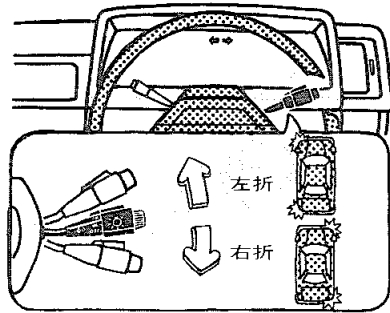
★エンジン停止時、前照灯などのランプを長時間つけたままにしないでください。バッテリーがあがり、エンジンの始動ができなくなります。

▶ 追い越し合図灯



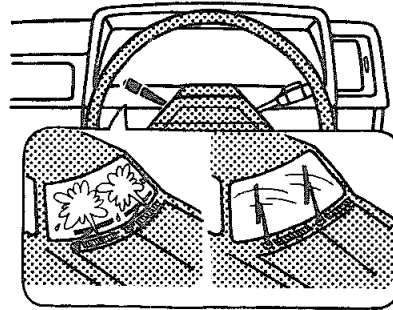
1. レバーを手前に引いている間、前照灯の上向きと計器内の前照灯の上向き表示灯が点灯します。
2. レバーから手をはなすともとの位置にもどります。

■方向指示レバー



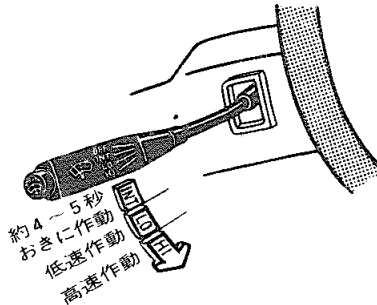
1. エンジン・スイッチがONのとき使用できます。
2. レバーを右または左へ操作すると、右または左側の方向指示灯および方向指示灯表示灯が点滅します。
3. レバーはハンドルをもどすと自動的にもどります。もどらないときは、手でもどしてください。

■フロント・ワイパー／ウォッシャー・スイッチ*

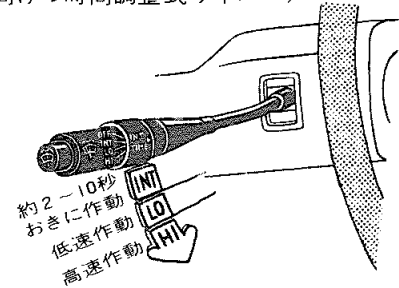


▶ワイパーの使い方

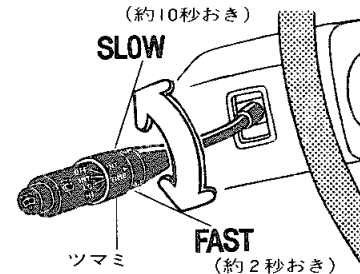
<間けつワイパー>



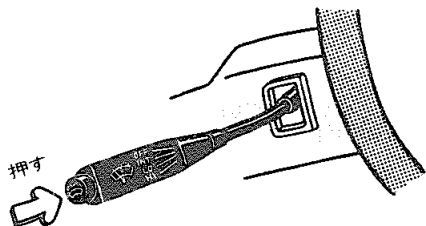
<間けつ時間調整式ワイパー>



1. エンジン・スイッチがONのとき使用できます。
2. レバーを図のように操作するとワイパーが作動します。
3. 間けつ時間調整式ワイパーはINT TIMEのつまみを操作することにより、間けつ時間を約2～10秒の間で調整できます。



▶ウォッシャー液の噴射方法



1. エンジン・スイッチがONのとき使用できます。
2. レバー先端に付いているスイッチを押すとウォッシャー液が噴射されます。
3. 間けつ時間調整式ワイパーは、スイッチを0.5秒以上押すとウォッシャー液を噴射し、約1秒後にワイパーが2～3回作動します。

★ウォッシャー・タンクがカラのときは、ウォッシャー・スイッチを使用しないでください。ポンプを痛めることがあります。

★からぶきはガラスを傷つけることがあります。必ず、ウォッシャー液を噴射してからワイパーを作動させて

ください。

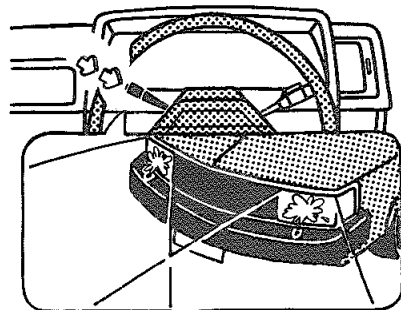
★ワイパーを作動させる前に、ワイパー・ゴムがガラスに張りついていないことを点検してください。ワイパー・ゴムがガラスに張りついたまま作動させると損傷したりモーターが故障することがあります。

★フロント・ガラスに多量の雪が積もりそうなときは、寒冷地用のワイパーに切り替えてください。
(183ページの「寒冷地での取り扱い」の項目を参照してください。)



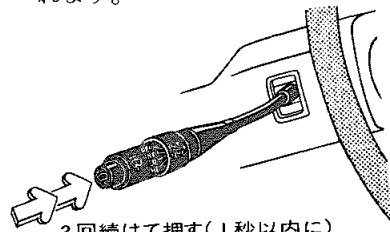
寒冷時にウォッシャー液を使用するときはガラスに放射された液が凍結し、視界不良を起こすことがありますので先にウインドウ・ガラスを暖めてください。

■前照灯クリーナー*



前照灯に付着した泥や虫などのよごれを取ります。

1. エンジン・スイッチがONでライト・スイッチがONのとき使用できます。
2. フロント・ウォッシャー・スイッチを1秒以内に2回続けて押すと、ウォッシャー液が約0.5秒噴射されます。

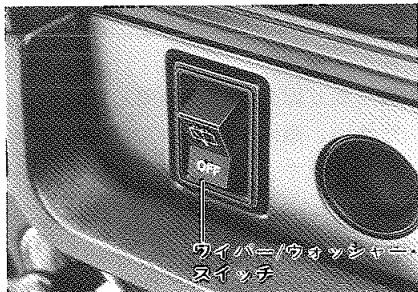


無断複製禁止

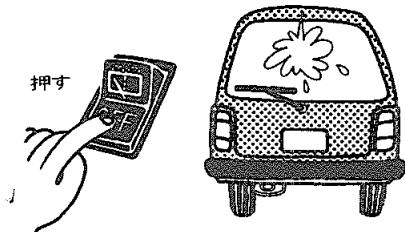
*印のついているものは巻末の装備品一覧表をご覧ください。



■ リヤ・ワイパー／ウォッシャー・スイッチ*

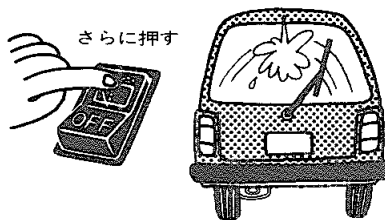
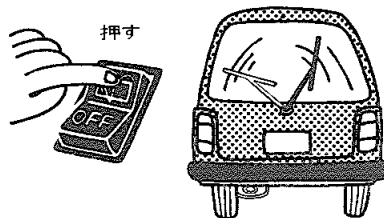
ハードトップ／ワゴン／バン



1. エンジン・スイッチがONのとき使用できます。
2. スイッチのOFF側を押すと、ウォッシャー液が噴射されます。

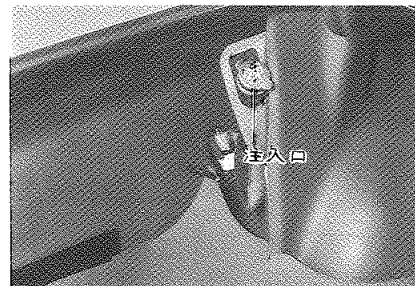


3. スイッチの  側を押すとワイパーが作動します。ワイパー作動中にウォッシャー液を噴射させるときは  側をさらに押します。



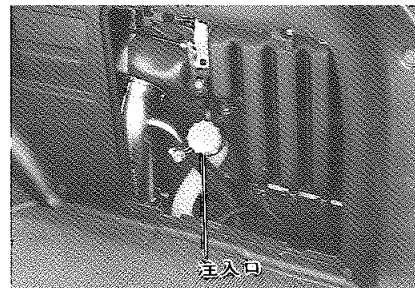
▶ リヤ・ウォッシャー・タンクの位置

ハードトップ



トランク左側に取り付けてあります。

ワゴン／バン



荷室右側に取り付けてあります。

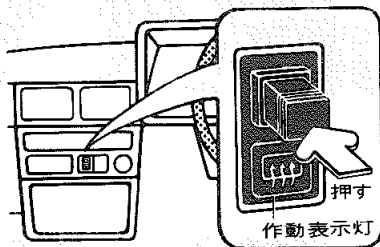
■リヤ・ウインドウ・ガラス曇り取り
スイッチ*

リヤ・ウインドウ・ガラスが曇ったとき、ガラスの表面を暖めて、曇りを取り除きます。

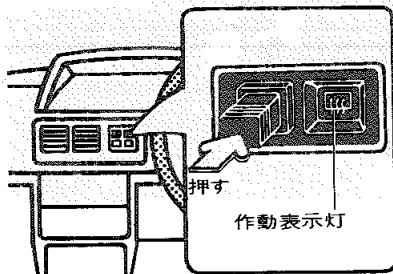
1. エンジン・スイッチがONのとき
使用できます。

▶タイマー付き

セダン/ワゴン/バン



ハードトップ

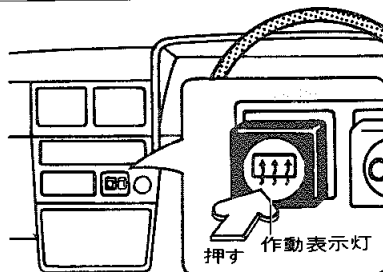


スイッチを押してONにすると作動し、作動表示灯が点灯します。約18分間作動し、自動的にOFFになります。

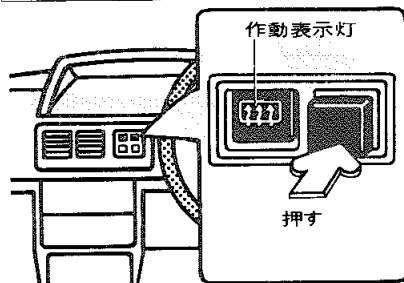
途中で解除したいときは、スイッチを手前に引きます。

▶タイマーなし

セダン/ワゴン/バン



ハードトップ



スイッチを押してONにすると作動し、作動表示灯が点灯します。

もう一度スイッチを押すと作動は停止します。

★曇り取り以外には、使用しないでください。雨水の乾燥や雪などを溶かすことはできません。

★注意

1. リヤ・ウインドウ・ガラスの曇りが消えたら、スイッチは必ず切ってください。曇り取り装置は消費電力が大きいので、スイッチを入れたままにしておくと、バッテリーあがりの原因になります。

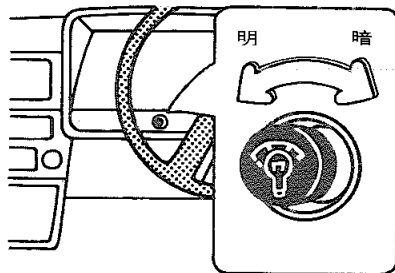
2. 熱線入りガラス(内側)の清掃は、ぬらした布で熱線にそって、軽くふいてください。ガラス・クリーナーなどは使用しないでください。

無断複製禁止

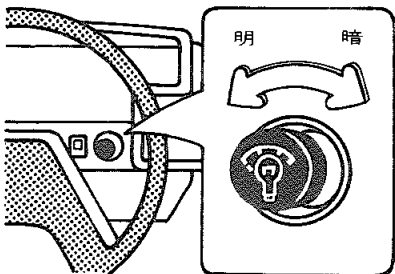
*印のついているものは巻末の装備品一覧表をご覧ください。

■ 計器照度調整スイッチ*

セダン



ハードトップ

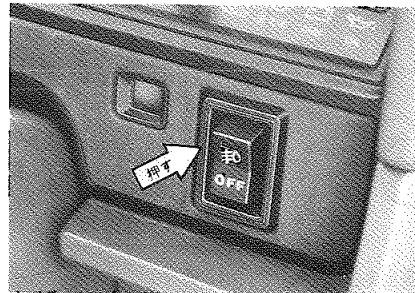


1. ライト・スイッチがONのとき使用できます。
2. ツマミを左に回すと計器照明灯が明るくなり、右に回すと暗くなります。
3. デジタル式メーターは、ツマミを

左にいっぱい回した位置（カチッと音がする位置）にすれば、メーター内の各表示部はライト・スイッチをONにしても減光されません。

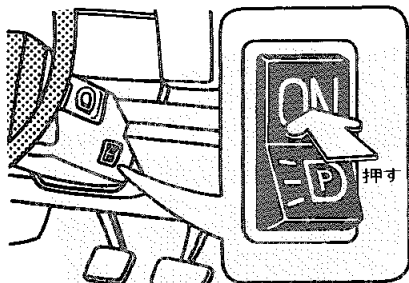
■ フォグ・ランプ・スイッチ

パンを除く



1. ライト・スイッチがONのとき使用できます。
2. スイッチのON側を押すと点灯し、OFF側を押すと消灯します。

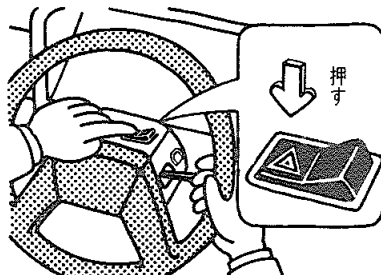
■ 駐車灯スイッチ



路上駐車時に使用します。

1. スイッチのON側を押すと前後左右の駐車灯が点灯し、OFF側を押すと消灯します。
2. 完全充電状態のバッテリーでも長時間使用すると、バッテリーが上がり、エンジンの始動ができなくなります。

■ 非常点滅灯スイッチ



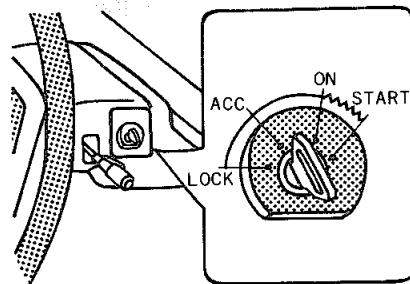
故障などで、やむをえず路上駐車する場合、他車に知らせるために使用します。

1. スイッチの△側を押すとすべての方向指示燈が点滅します。このとき同時に計器内にある方向指示燈表示燈も点滅します。
2. スイッチの△の付いていない方を押すと消灯します。
3. 完全充電状態のバッテリーでも長時間使用すると、バッテリーが上がり、エンジンの始動ができなくなります。

★走行中、異常がないのに使用すると他車の誤解をまねき危険です。

運転装置の操作

■ エンジン・スイッチ



▶ 各位置の働き

LOCK

キーを抜き差しできる位置。

キーを抜くとハンドルがロックされます。

ACC

エンジン停止時、下記のものが使用できます。

- ラジオ、カセット・ステレオ

無断複製禁止

●シガレット・ライター

ON

エンジン回転中の位置。

ディーゼル車は始動時、予熱プラグを加熱します。

START

エンジンを始動する位置。

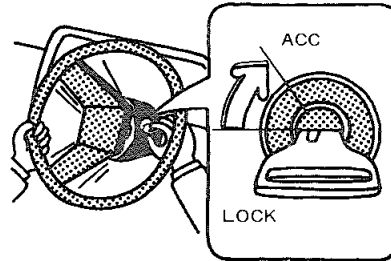
手をはなすと、自動的にONにもどります。

★エンジンが始動したら、キーから手をはなしてください。START位置のままにしていると、エンジンを損傷するおそれがあります。

★エンジンがかからないとき、15秒(ディーゼル車は30秒)以上STARTの位置へ回したままにしないでください。バッテリーあがりを起こすおそれがあります。

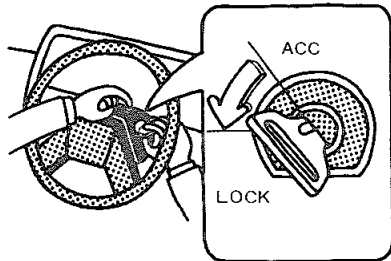
<LOCKからACCに回すとき>

キーが回りにくいときは、ハンドルを軽く左右に動かしながらキーを回します。



<ACCからLOCKに回すとき>

ボタンを押しながらキーを回します。キーを抜くとハンドルがロックされ車両盗難防止に役立ちます。





バッテリーあがりを起こさないために、下記事項を必ず守ってください。

- エンジン停止時は、スイッチをLOCKまたはACCにする。
長時間停止する場合はキーを抜く。
- エンジンを止めた状態(ONまたはACC)で、ラジオ、カセット・ステレオ、クルーズ・コンピューターを長時間使用しない。

▶ エンジンのかけかた

始動するときは必ず駐車ブレーキをかけ、チェンジ・レバーを下記の位置にします。

- マニュアル・トランスミッション車  位置。
- オートマチック・トランスミッション車  位置。

13T-J, 1S-U エンジンとう載車

＜エンジンが冷えているとき＞

1. アクセル・ペダルを次表にしたがって踏み込みます。

外 気 温	踏 む 回 数
+5℃以上	軽く1回
+5℃～-10℃	いっぱい1～2回
-10℃以下	いっぱい2～3回

2. アクセル・ペダルから足をはなし、エンジン・スイッチをSTARTの位置に回しエンジンを始動します。
3. しばらく暖機運転をします。
自動チョークが働いていますのでエンジン回転は徐々に高くなりま

す。

4. 回転が高くなったときは、アクセル・ペダルを軽く踏んでから足をはなし回転を下げてください。



エンジンが暖機されると自動的に回転は下がりますが、暖機運転中は回転が高くなりすぎることがあります。

外気温によって異なりますが約20℃のときであれば、エンジン始動後約30秒でアクセル・ペダルを軽く踏んでのはなし回転を下げてください。

＜エンジンが暖まっているとき＞

アクセル・ペダルを半分程度に踏み込んだままエンジンを始動してください。

1G-EU, M-TEU, 1G-GEU エンジンとう載車

1. アクセル・ペダルから足をはなしたままエンジン・スイッチをSTARTの位置に回しエンジンを始動します。
2. そのままで、しばらく暖機運転をします。暖機が終われば自動的にエンジン回転が下がります。

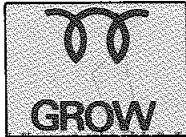


M-TEU エンジンとう載車はターボ機能を損うおそれがありますので寒冷時の始動直後は、エンジンの急激な空ふかしまたは急加速をしないでください。

Lエンジンとう載車

ディーゼル車の始動はガソリン車と異なり、予熱プラグによるエンジン内部の加熱が必要です。

1. エンジン・スイッチを ON にすると予熱表示灯が点灯します。



2. 予熱プラグによる加熱が完了し、表示灯が消灯したらアクセル・ペダルを半分程度踏み込み、エンジン・スイッチを START の位置に回します。

★予熱表示灯の点灯時間は、エンジン冷却水温により自動的に制御され、冷却水温の低いとき、および寒冷時には多少長くなります。

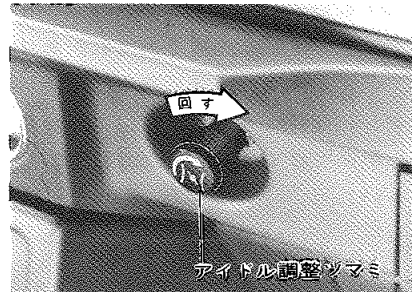
3. エンジンの回転が完全に持続するまで、エンジン・スイッチを START の位置で保持します。

★約30秒経過してもエンジンを始動で

きない場合は、いったんエンジン・スイッチを ACC の位置にもどし、少し間をおいてから 1～3 を繰り返してください。

★エンジンが暖まっているときは、予熱表示灯に関係なく始動できます。

4. エンジン始動後、アイドル調整ツマミを右方向に回してエンジンが安定して回るところまで回転をあげ、十分暖機運転をします。

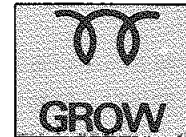


5. 暖機後は、アイドル調整ツマミを左にいっぱい回し、標準のアイドル回転にもどします。

2L-TEエンジンとう載車

ディーゼル車の始動はガソリン車と異なり、予熱プラグによるエンジン内部の加熱が必要です。

1. エンジン・スイッチを ON にすると予熱表示灯が点灯します。



2. 予熱プラグによる加熱が完了し、表示灯が消灯したらアクセル・ペダルから足をはなしたままエンジン・スイッチを START の位置に回しエンジンを始動します。

★予熱表示灯の点灯時間は、エンジン冷却水温により自動的に制御され、冷却水温の低いとき、および寒冷時には多少長くなります。

3. エンジンの回転が完全に持続するまで、エンジン・スイッチを START の位置で保持します。

4. そのままで、しばらく暖機運転を

します。暖機が終われば自動的にエンジン回転が下がります。

★約30秒経過してもエンジンを始動できない場合は、いったんエンジン・スイッチをACCの位置にもどし、少し間をおいてから1～3を繰り返してください。

★エンジンが暖まっているときは、予熱表示灯に関係なく始動できます。



2L-TEエンジンとう載車はターボ機能を損うおそれがありますので寒冷時の始動直後は、エンジンの急激な空ふかしまは急加速をしないでください。

▶ エンジンの止めかた

1. 駐車ブレーキ・レバーを引きます。
2. チェンジ・レバーをマニュアル・トランスミッション車はロー（1速）またはリバース（後退）、オートマチック・トランスミッション車はP位置にします。
3. エンジン・スイッチをACCまたはLOCKの位置にします。



M-TEU, 2L-TEエンジンとう載車はターボ機能を損うおそれがありますので高遠走行、登坂路走行直後にエンジンを停止するときは、次の表にしたがって必ずアイドル運転をしてください。

〔参考〕

エンジン停止前のアイドル運転時間

運 転 状 況		アイドル運転時間
市街地、郊外などの一般走行		必要なし
高速走行	約80km/h定速	約20秒
	約100km/h定速	約1分
山岳ドライブ・ウェイなどの急な登坂路走行およびレース場など100km/h以上の連続走行		約2分

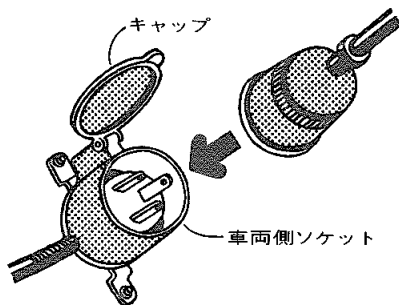
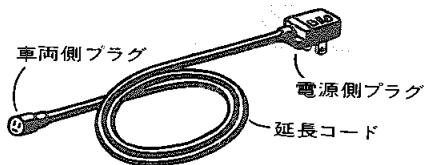
■エンジン・ヒーター*

寒冷時電熱ヒーターにより冷却水を暖めて始動性を良くする装置です。

- 通電時間が長い程暖機運転時間の短縮およびヒーターの速効性に効果があります。
- 長時間通電しても過熱の心配はありません。

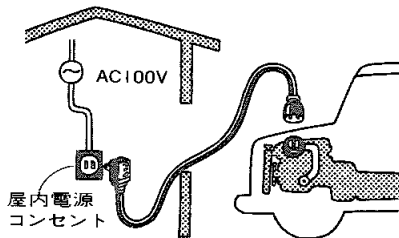
▶使用方法

1. ボンネットをあけて、冷却水の量が適正であることを確認します。(147ページの「冷却水の量」の項目を参照してください。)
2. 延長コードの車両側プラグを車両側のソケットに差し込み、ボンネットを軽くしめます。



★コードを損傷させないようにボンネットをロックするまでしめないください。

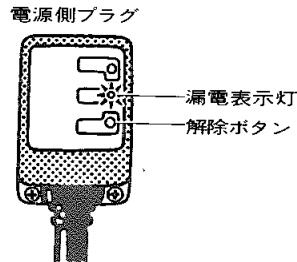
3. 延長コードの電源側プラグをAC 100Vコンセントに差し込みます。



4. 通電時間は、気温や周囲の状態などにより異なりますが、およそ次の時間を目安にご使用ください。

外気温	通 電 時 間	
	マニュアル・ トランスミッション車	オートマチック・ トランスミッション車
-20°C	30分以上	60分以上
-25°C	60分以上	90分以上
-30°C	90分以上	120分以上

★通電中に漏電表示灯が点灯した場合は、一度解除ボタンを押してください。解除ボタンを押しても消灯しないときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。



5. 通電が終わったら、電源側からコードを取りはずし、車両側ソケットのキャップをしめます。

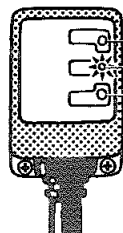
★エンジンを始動する前に必ず延長コードを取りはずし、車両側ソケットのキャップをしめてください。

▶ エンジン・ヒーターの点検

使用前と月1回以上、下記の手順で点検を行なってください。

1. 延長コードの電源側プラグを電源コンセントに差し込みます。
2. テスト・ボタンを押して、漏電表示灯が点灯することを確認します。

電源側プラグ



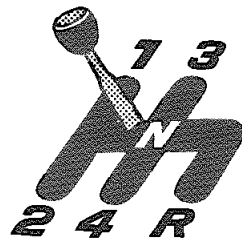
- テスト・ボタン
- 漏電表示灯
- 解除ボタン

3. 解除ボタンを押して、漏電表示灯が消灯することを確認してから、コードをコンセントからはずします。

★万一、テスト・ボタンを押しても正常に作動しない場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

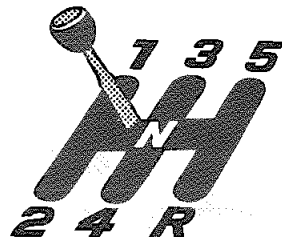
■ マニュアル・トランスミッション

4速フロア・チェンジ



R はリバース（後退）を示します。

5速フロア・チェンジ

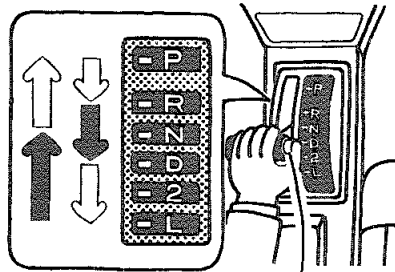


R はリバース（後退）を示します。

■オートマチック・トランスミッション

3速オートマチック・トランスミッション
(13T-Jエンジンとう載車)

▶フロア・チェンジ



チェンジ・レバー・ボタン

<レバーの動かしかた>



そのまま動かします。



チェンジ・レバー・ボタン
を押して動かします。

▶各位置の働き

Ⓐ パーキング (駐車)

駐車およびエンジン始動の位置。

Ⓑ リバース (後退)

バックさせるときの位置。

Ⓒ ニュートラル (中立)

この位置でもエンジンを始動することができ、安全のためにⒶ位置で始動してください。

Ⓓ ドライブ (通常走行)

通常走行の位置。

Ⓔ セカンド (2速)

エンジン・ブレーキが必要な場合に使う位置。

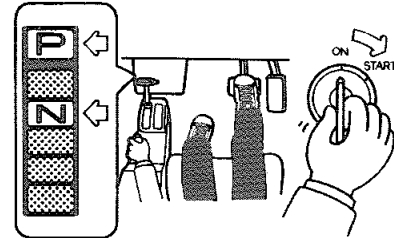
Ⓛ ロー (1速)

強力なエンジン・ブレーキが必要な場合に使う位置。

★50km/h (ディーゼル車は40km/h) 以上では使用しないでください。

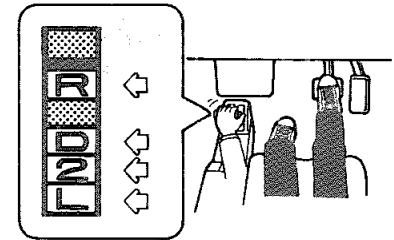
▶運転のしかた

1. エンジン始動



エンジンの始動は、必ずブレーキ・ペダルを踏んだままあるいは駐車ブレーキをかけたままⒶまたはⒸで行ないます。

2. 発進

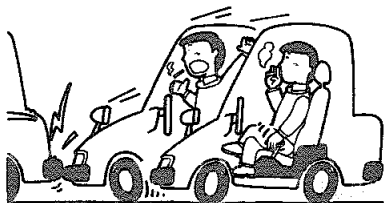


発進は、ブレーキ・ペダルを踏んだまま前進はⒹまたはⒺ、後退はⒷにチェンジ・レバーを操作し

シフト位置を確認した後、ブレーキを解除してアクセル・ペダルを踏み発進します。

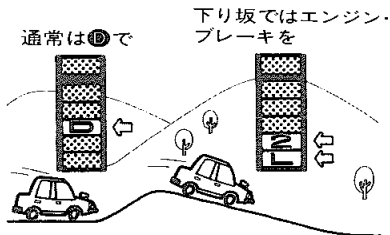


1. チェンジ・レバー操作は、⑬、⑭以外のシフト位置では車が走り出す状態になりますので、必ずブレーキ・ペダルを踏んだまま行ってください。



2. アクセル・ペダルを踏み込んだまま、チェンジ・レバーを操作しないでください。また、エンジン回転が高いときはブレーキ・ペダルを確実に踏んだままチェンジ・レバーを操作してください。急発進の危険があります。

3. 走行



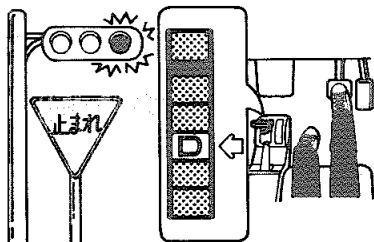
- 通常は⑬で発進すると、1速からスピードにより2速、3速と自動的に切り替わります。
マニュアル・トランスミッション車と同様に⑬から発進し、②から⑬へと手動の操作でも運転できます。
- 下り坂では路面状態やスピードに応じて②または⑬に入れてエンジン・ブレーキをかけます。
- 追い越しなど急加速したいときはアクセル・ペダルをいっぱい踏み込むとチェンジ・レバーは⑬のままでもギヤは3速からスピードにより自動的に2速または1速に切

り替わって急加速ができます。



1. 走行中⑬に入れるのは、エンジン・ブレーキが効かなくなるためさけてください。
2. 前進から後退、後退から前進にチェンジ・レバーを操作するときは車が完全に止まってから、ブレーキ・ペダルを踏んだまま確実に行ってください。
3. 長坂路を下るときなどには、チェンジ・レバーを②にしたりして車速に適したエンジン・ブレーキを使用してください。

4. 一時停止

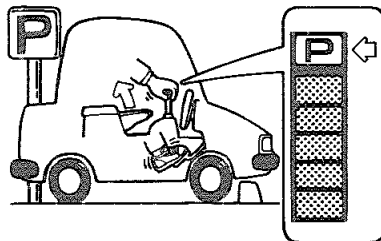


一時停止のときは、そのつど⑮にして、ブレーキ・ペダルを確実に踏むか⑩、②、③、④のままブレーキ・ペダルを確実に踏みます。



1. 上り坂で停止するときには、アクセル・ペダルを踏みながら車を止めておくような運転はしないで、ブレーキを使用して確実に止めてください。
2. 一時停止のときには、必ずしも⑮にする必要はありません。

5. 駐停車



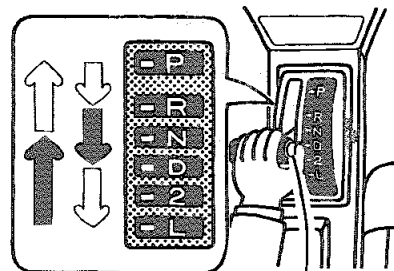
駐停車するときは車が完全に止まってから、ブレーキ・ペダルを踏んだままチェンジ・レバーを⑮に入れて駐車ブレーキを確実にかけます。



1. 駐停車中は、むやみにエンジンを高回転にしないでください。
2. 駐停車中に⑮に確実に入っていないと、外部からのショックなどで車が動くおそれがあります。

オーバードライブ付き4速オートマチック・トランスミッション*
 <1 S-U, M-TEU, L, 2 L-TEエンジンとう載車>

▶フロア・チェンジ



チェンジ・レバー・ボタン

<レバーの動かしかた>



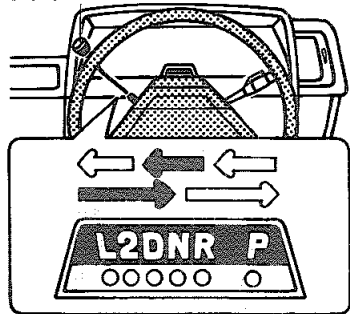
そのまま動かします。



チェンジ・レバー・ボタンを押して動かします。

▶ ハンドル・チェンジ

チェンジ・レバー



◀レバーの動かしかた▶



そのまま動かします。



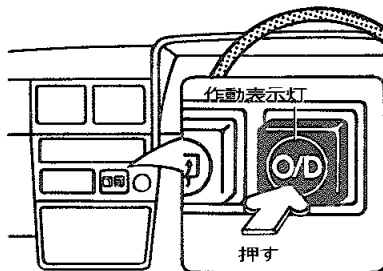
チェンジ・レバーを手前に引いて動かします。

▶ 運転のしかた

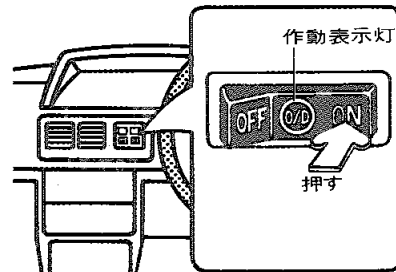
3速オートマチック・トランスミッションにオーバードライブ装置を加え4速オートマチック・トランスミッションとしての機能を持たせたものです。操作要領は以下の点が3速オートマチック・トランスミッションと異なります。

1. 通常走行時はオーバードライブ・スイッチをONにしておいてください。4速オートマチック・トランスミッションとして働きます。

◀セダン／ワゴン▶



◀ハードトップ▶



2. オーバードライブが作動しているときは、作動表示灯が点灯します。ただしターボ車は装置の作動に関係なく、ライト・スイッチをONにすると作動表示灯が点灯します。
3. オーバードライブ・スイッチをOFFにしておけば3速オートマチック・トランスミッションとして働きます。

★エンジンの冷却水が冷えている場合には、オーバードライブ装置が作動しません。（ディーゼル車を除く）

★山道などで長い坂道を走行するときは、エンジン・ブレーキの効きをよ

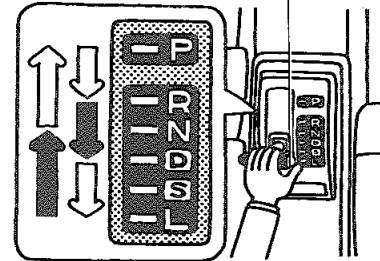
2ウェイ・オーバードライブ付き4速オートマチック・トランスミッション
 <1G-EUエンジンとう載車>

オーバードライブ付き4速オートマチック・トランスミッションにロック・アップ機構を加え、燃費を向上させたものです。

取り扱い方法は、オーバードライブ付き4速オートマチック・トランスミッションと同じです。

ECT（電子制御式4速オートマチック・トランスミッション）
 <1G-GEUエンジンとう載車>

チェンジ・レバー・ボタン



2ウェイ・オーバードライブ付き4速オートマチック・トランスミッションにマイクロ・コンピューターを組み合わせ、適切なギヤの切り替えを行いません。

また、パターン・セレクト・スイッチにより、運転条件に応じた走行パターンを選択できる機能を持たせたものです。

くするためにスイッチをOFFにしておいてください。

★強いエンジン・ブレーキが必要なときは、スピードに応じて②または③に入れてください。

ただし、すべりやすい路面では、タイヤがスリップして危険ですので急激なエンジン・ブレーキをかけることはさけてください。

〈レバーの動かしかた〉



そのまま動かします。



チェンジ・レバー・ボタンを押して動かします。

▶各位置の働き

Ⓟパーキング（駐車）

駐車およびエンジン始動の位置。

Ⓡリバース（後退）

バックさせるときの位置。

Ⓝニュートラル（中立）

この位置でもエンジンを始動することができますが、安全のためにⓅ位置で始動してください。

Ⓛドライブ

通常走行の位置。

パターン・セレクト・スイッチにより、通常走行、経済走行、パワー走行が選択できます。

Ⓢスーパー

エンジン・ブレーキが必要な場合に

使う位置。

- ノーマル、エコノミー・パターンを選択した場合は、サードのエンジン・ブレーキが得られます。
- パワー・パターンを選択した場合は、セカンドのエンジン・ブレーキが得られます。

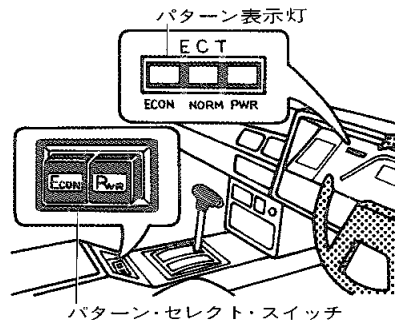
Ⓛロー（1速）

強力なエンジン・ブレーキが必要な場合に使う位置。

★65km/h以上では使用しないでください。

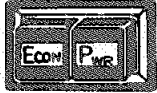





▶走行パターンの選択

パターン・セレクト・スイッチで走行パターンを選択します。選択方法は、次の〈走行パターン選択の目安〉を参照してください。



★走行中でも走行パターンを切り替えることができます。

〈走行パターン選択の目安〉

走行パターン	パターン・セレクト・スイッチの状態(注)	パターン表示灯	使用条件
ノーマル			通常走行の場合に使用し、パターン・セレクト・スイッチのセットは不要です。
エコノミー			より経済的な走行を希望する場合に使用します。
パワー			パワフルな運転や山間地での運転およびⓈレンジでセカンドのエンジン・ブレーキが必要な場合に使用します。

(注) 同一ボタンを再度押すと設定パターンは解除され、ノーマル・パターンになります。

▶ 運転のしかた

Ⓢレンジでのエンジン・ブレーキの効きがパターン・セレクト・スイッチで選択できること以外は、オーバードライブ付き4速オートマチック・トランスミッション車と同じ取り扱いです。

★ゆるい長坂路の場合は、ノーマル・パターンのⓈレンジにしてください。(サードのエンジン・ブレーキが効きます)

★山間路などの急な坂路の場合は、パワー・パターンのⓈレンジにしてください。(セカンドのエンジン・ブレーキが効きます)

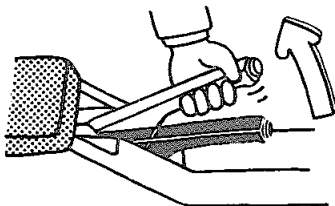
★強力なエンジン・ブレーキが必要な場合は、スピードに応じてⓈレンジに入れてください。

ただし、すべりやすい路面では、タイヤがスリップして危険ですので、急激なエンジン・ブレーキをかけることはさけてください。

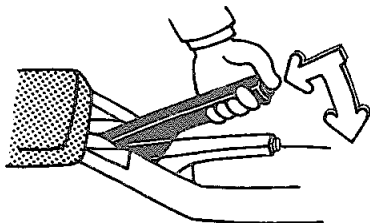
■ 駐車ブレーキ

マニュアル・トランスミッション車

1. 駐車するときは、ボタンを押さずにレバーをいっぱい引きます。



2. もどすときはレバーを少し引き上げながら先端のボタンを押えてもどします。



オートマチック・トランスミッション車

1. 駐車するときは、ペダルを強くいっぱい踏み込みます。

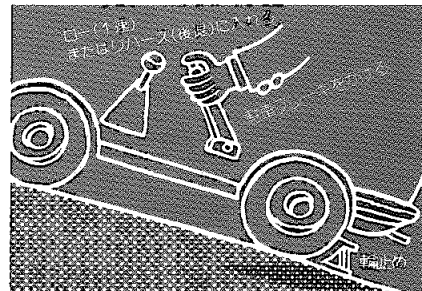


2. もどすときは、解除レバーを引きます。



駐車ブレーキをかけたまま走行するとブレーキの効きが悪くなるおそれがあります。

▶ 駐車のかた

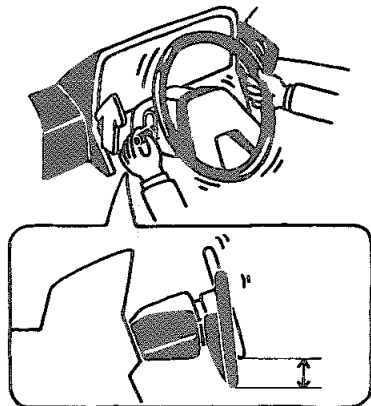


1. 駐車ブレーキをかけます。
2. チェンジ・レバーをマニュアル・トランスミッション車はロー（1速）またはリバース（後退）、オートマチック・トランスミッション車は④の位置にします。

★坂道では輪止め（とう載工具に含まれています）を忘れずに使用してください。

★急な坂道での駐車はしないでください。

■チルト・ステアリング（上下調整式ハンドル）*



ハンドル操作がしやすい位置に調整できます。

1. ツマミを押し上げている間、ハンドル位置を上下にかえられます。
2. 適切な位置でツマミをはなせば、ハンドルはその位置で固定されます。
3. 調整後は、ハンドルを上下に動かして固定されたことを確認してください。

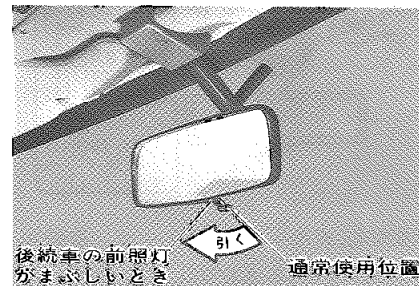


ハンドルの位置調整は、走行前に行なってください。車が動いているときの調整は危険です。

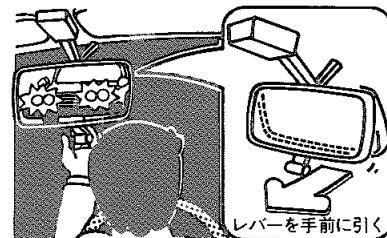
■ミラー

★走行前に後方視野が十分確認できる位置に調整してください。

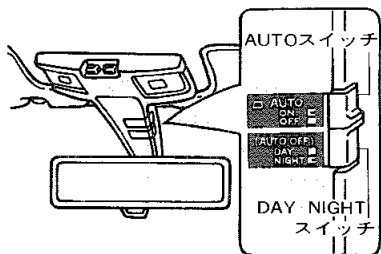
▶防眩式ルーム・ミラー*



1. ミラー調整は通常使用位置で行なってください。
2. 夜間走行時など、後続車の前照灯がミラーに反射してまぶしいときは、ミラーの下にあるレバーを手前に引いてください。



▶ 自動防眩式ルーム・ミラー*



自動防眩式ルーム・ミラーは、後続車の前照灯の明るさに応じて自動的にルーム・ミラーを切り替える装置です。

1. エンジン・スイッチがONのとき使用できます。

<使用方法>

1. AUTOスイッチを押してONにし、前照灯を点灯させると作動します。
2. AUTOスイッチがOFFのときDAY-NIGHTスイッチでミラーの手動切り替えができます。

通常走行時

DAY-NIGHTスイッチをDAYにする	
----------------------	--

後続車の前照灯がまぶしいとき

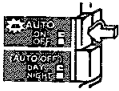

DAY-NIGHTスイッチをNIGHTにする	
------------------------	--

<ミラーの合わせかた>


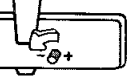
操作手順	
1	エンジン・スイッチをONにする
2	AUTOスイッチをOFFにする
3	DAY-NIGHTスイッチをDAYにする
4	ミラーの上端部にリヤ・ウィンドウ・ガラスの上端が映るようにミラーを調整する
5	AUTOスイッチをONにする

〈自動切り替え感度の調整〉

- 後続車の前照灯がまぶしいのにミラーが切り替わらないとき

操作手順		
1	AUTOスイッチをONにし、前照灯を点灯させる	
2	感度調整ツマミを+側に回す	

- 後方が暗いのにミラーがNIGHTのままのとき

操作手順		
1	AUTOスイッチをONにし、前照灯を点灯させる	
2	感度調整ツマミを一側に回す	

★周囲の交通の状況に十分注意して調整してください。

★周囲の明るさにより人の目の感じ方が変わりますので、必要に応じて切り替え感度を調整してください。

★次のような場合に、自動切り替えが行なわれないことがあります。安全のため、AUTOスイッチをOFFにして、DAY-NIGHTスイッチで切り替えてください。

- 大雨や濃霧時などの昼間走行時
- 夜間、信号待ちなどで前照灯を消灯したとき
- 昼間、トンネルにはいったとき

★使用状況によってはミラーが一度切り替る場合があります。

- 追い越し合図をしたとき
- エンジン・スイッチをONにした場合ミラーがNIGHT状態になっているとき

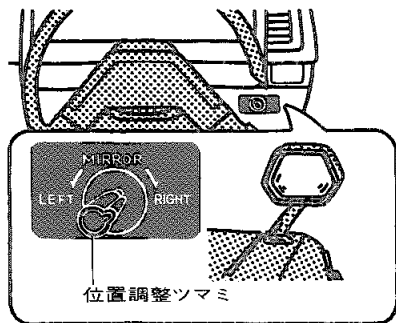
★ミラーを直接手で動かしたときスイッチの位置とミラー状態が一致しない

ことがあります。

★次のような場合、装置の異常が考えられます。トヨタ販売店で点検を受けてください。

- ミラーが全く自動切り替えしない。
- DAY-NIGHTスイッチをDAY側にして調整したとき、NIGHT側に切り替わると後方視野がズレてしまう。

▶ 電動フェンダー・ミラー*

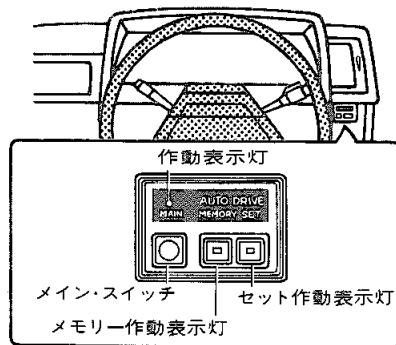


1. ツマミをRIGHTの位置に回して、上下左右に動かすと右側のフェンダー・ミラーの位置調整ができます。LEFTの位置に回せば、左側のミラーも同様に調整できます。

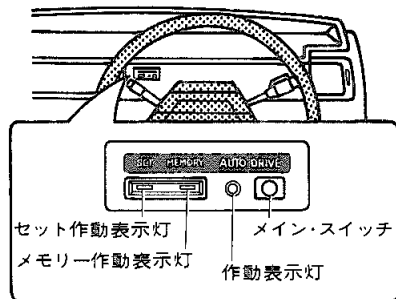
■ オート・ドライブ(自動定速走行装置)

グランド車(M-TEU車を除く)に注文装備

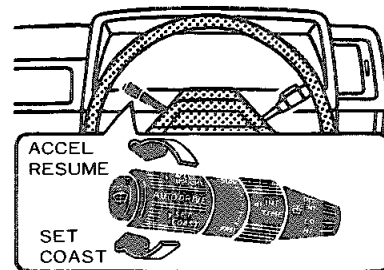
▶ メイン・スイッチ
<セダン>



<ハードトップ>





▶ コントロール・スイッチ



オート・ドライブは、アクセル・ペダルを踏まなくても40~100km/hの任意の速度で車速を一定に保つことができる装置です。

1. メイン・スイッチをONにすると作動表示灯が点灯し、作動待機状態になります。
2. オート・ドライブが作動しているときは、セット作動表示灯が点灯します。

▶希望速度にセットするとき

操作手順	
1	メイン・スイッチをONにする 
2	希望速度まで加速する
3	コントロール・スイッチをSET側に回す 
4	コントロール・スイッチから手をはなす

※40～100km/h以内で使用できます。

★オート・ドライブ走行時、急な登坂路になると走行車速は設定車速より低下することがあります。(オートマチック・トランスミッション車の場合、車速が8～12km/h以上低下すると自動的にオーバードライブは解除されます。)

▶オート・ドライブ走行中に車速変更するとき

＜増速したいとき＞


●コントロール・スイッチで

操作手順	
1	ACCEL側に回し続ける 
2	希望速度になったらスイッチから手をはなす

急な坂道では、ACCEL側に回しても増速できないことがあります。増速できないときは、アクセル・ペダルを使って車速を変更してください。

★オートマチック・トランスミッション車の場合には1の操作をしたときに自動的にオーバードライブが解除されます。

●アクセル・ペダルで

操作手順	
1	アクセル・ペダルを踏み込み希望車速まで加速する
2	コントロール・スイッチをSET側に回す 


※100km/h以上では作動しません。

＜一時的に増速したいとき＞


1. アクセル・ペダルを踏み込みます。
2. アクセル・ペダルをはなせば、設定速度まで自動的にもどり、その後定速走行を維持します。

〈減速したいとき〉

● コントロール・スイッチで

操作手順	
1	COAST側に回し続ける 
2	希望速度になったらスイッチから手をはなす

● ブレーキ・ペダルで

操作手順	
1	ブレーキ・ペダルを踏み、希望車速まで減速する
2	コントロール・スイッチをSET側に回す 

※ 40km/h以下ではセットできません。

▶ メモリー作動表示灯が点灯しているとき

コンピューターがオート・ドライブ走行車速を記憶していることを示します。

▶ オート・ドライブ状態を解除するとき
メイン・スイッチをOFFにすればオート・ドライブの全作動を停止、解除できます。また次の場合は自動的に解除されます。

- ① ブレーキ・ペダルを踏んだとき
- ② チェンジ・レバーをNにしたとき
(オートマチック・トランスミッション車)
- ③ クラッチ・ペダルを踏んだとき
(マニュアル・トランスミッション車)
- ④ 車速が40km/h以下になったとき
- ⑤ 車速が設定車速の $\frac{3}{4}$ 以下になったとき

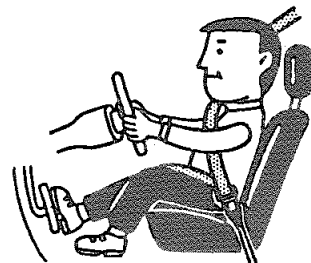
▶解除前の設定速度にもどしたいとき前記の①、②、③の方法で一度オート・ドライブが解除されても、車速が40km/h以上であればコントロール・スイッチをRESUME側に回すことにより、解除される前の設定速度まで自動的にもどり、その後定速走行を維持します。



1. オート・ドライブを使用しないときは、安全のためメイン・スイッチをOFFにしておいてください。
2. マニュアル・トランスミッション車の場合、オート・ドライブ走行中クラッチ・ペダルを踏まずにチェンジ・レバーをⓂの位置にしないでください。
3. 下記のような道路状況では、安全のためオート・ドライブは使用しないでください。
 - 交通量の多い道路
 - 急カーブ
 - 凍結路
 - 積雪路

シートの調整

■ フロント・シート



正しい姿勢で運転ができるように、下記事項に注意して調整します。

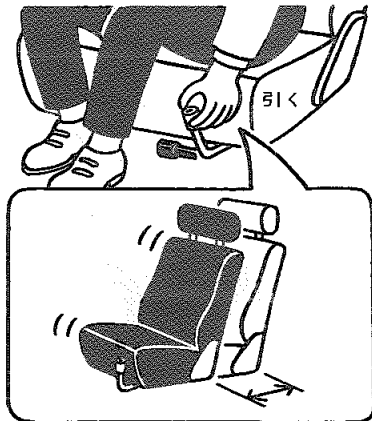
- ペダルが十分踏み込めること
- ハンドル操作が楽にできること



1. 調整は、必ず走行前に行なってください。
2. 調整後、シートを軽くゆさぶり確実に固定されていることを、確認してください。

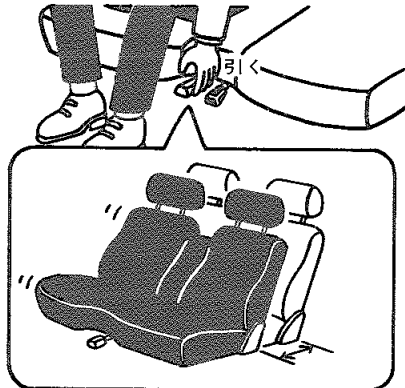
▶ 前後位置調整

セミ・セパレート・シート車を除く



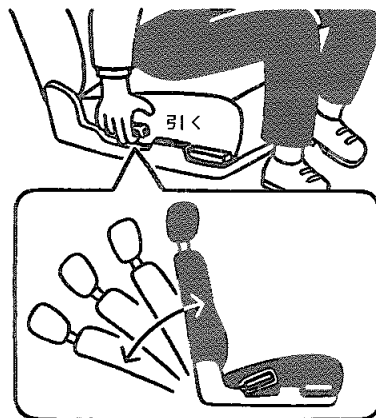
1. レバーを引き上げている間、前後の位置調整ができます。
2. 調整後、シートを軽くゆさぶり、確実に固定されていることを確認します。

セミ・セパレート・シート車



1. レバーを内側に引いている間、前後の位置調整ができます。
 2. 調整後、シートを軽くゆさぶり、確実に固定されていることを確認します。
- ★走行中、助手席の人がレバーを操作することがないように注意してください。

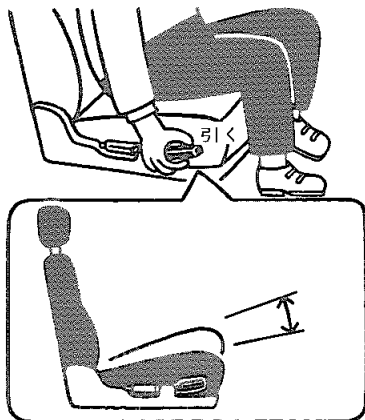
▶ リクライニング(背もたれ角度)調整



1. レバーを引き上げて、背もたれを背で押すと角度の調整ができます。
2. もどすときは、背もたれから背をはなし、レバーを引くと背もたれが起き上がります。
3. 調整後、背もたれを軽くゆさぶり確実に固定されていることを確認します。

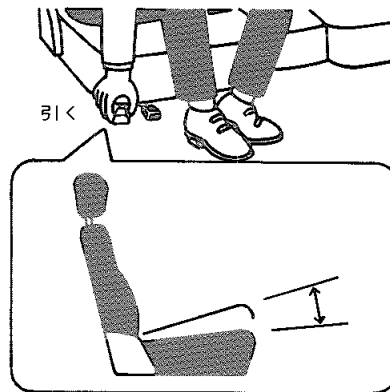
▶ パーチカル・アジャスタ (シート・クッション前部の高さ調整) *

セパレート・シート車



1. レバーを引き上げている間、シート・クッション前部の高さを4段階に調整することができます。
2. 調整後、シート・クッションを軽くゆさぶり、確実に固定されていることを確認します。

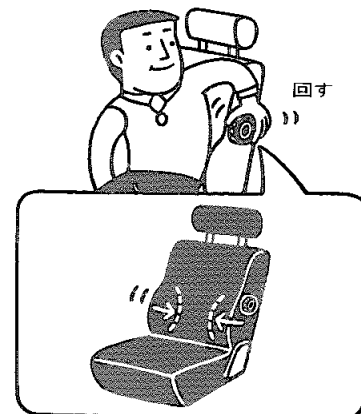
セミ・セパレート・シート車



1. レバーを引いている間、シート・クッション前部の高さを2段階に調整することができます。
2. 調整後、シート・クッションを軽くゆさぶり、確実に固定されていることを確認します。

▶ サイド・サポート・アジャスタ (背もたれ両側のクッション位置調整)

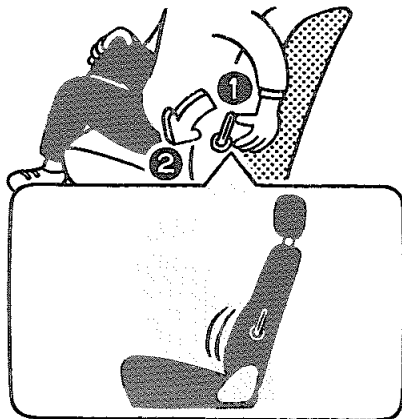
1G-GEU車



1. ハンドルをうしろに回すとクッションが内側に、前に回すと外側に移動します。

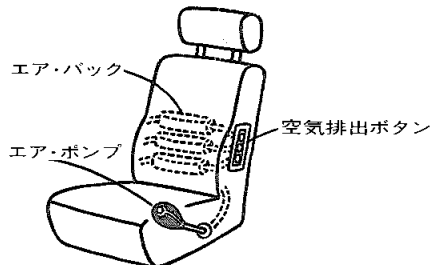
▶ ランバー・サポート（背もたれ腰部
当たり調整）*

機械式

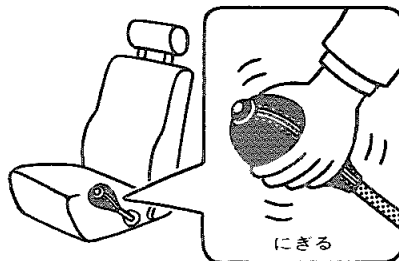


1. レバーを①～②へ動かすと背もたれの腰部の硬さがかわります。
2. 1の操作を繰り返すことにより、硬さを4段階まで調整できます。

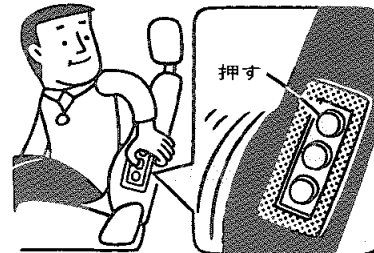
空気式



1. エア・ポンプをにぎってエア・バック内に空気を入れます。



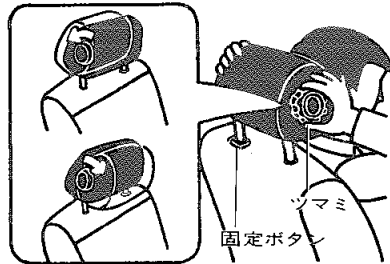
2. 腰部の当たりが強すぎる場合は、強すぎる部分の空気排出ボタンを押し、空気を抜きます。空気排出ボタンを押している間、空気が抜けます。



3. 2の操作で空気を抜きすぎたときは、1の操作からやりなおしてください。

▶ヘッド・レスト*

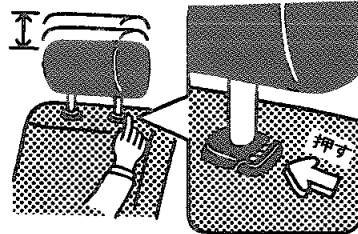
前後・上下調節式



ヘッド・レストの高さが耳の後方になるように調節します。また、ヘッド・レストと頭の間をにぎりこぶし以上あけないでください。

1. 上げるときはそのまま引き上げ、下げるときは固定ボタンを押しながら下げます。
2. 前後調整は、ツマミを前に回せば前方へ、うしろに回せば後方へ移動します。

上下調節式



ヘッド・レストの高さが耳の後方になるように調整します。

1. 上げるときは、ヘッド・レストを持ち上げるようにして引き上げます。
2. 下げるときは、固定ボタンを押しながらヘッド・レスト上部を押します。

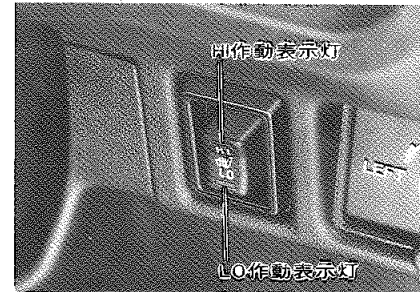


1. 正しい位置で使用しないと危険防止に役立ちません。
2. 背もたれと背中の中にクッションなどを入れると危険防止に役立ちません。

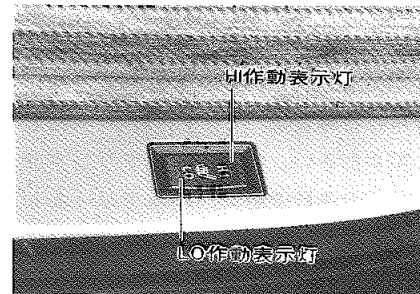
■シート・ヒーター*

スイッチで運転席および助手席を暖めることができます。

▶運転席用スイッチ



▶助手席用スイッチ



● 写真の状態のときスイッチOFF

● LO側を押すと弱い暖房

● HI側を押すと強い暖房

操作方法

1. エンジン・スイッチがONのとき切り替えスイッチをLOまたはHIにすると、ヒーターが作動し、シートを暖めることができます。
2. ヒーターが作動しているときは、切り替えスイッチの作動表示灯が点灯します。
3. ヒーター使用中、温度が高くなると自動的にOFFになり、温度が下がると自動的にONになります。

★ご使用にならないときは、切り替えスイッチをOFFにしてください。

★切り替えスイッチのHI側は消費電力が大きいため、シートが適温に暖められた場合は、LOまたはOFFにしてください。特に、アイドリング状態での連続使用は、バッテリーあがりの原因になります。

注意

1. 下記に相当する方が使用される場合は、ヒーター使用中、熱すぎたり低温やけど（紅斑、水ぶくれ）

を起こすことがありますので注意してご使用ください。

- 乳幼児、お子様、お年寄、病人、身体の不自由な方
- 皮膚の弱い方
- 疲労の激しい方
- 深酒やねむけをさそう薬（睡眠薬、かぜ薬など）を使用された方

2. 乳幼児が一人きりのときは使用しないでください。
3. 凹凸のある重量物をシート上に置いたり、針や釘などの鋭利な物を突きさしたりしないでください。
4. 過熱防止のため、毛布や座ぶとんなど保温性のよい物をかけた状態で使用しないでください。
5. シートを手入れするとき、シンナー、ベンジン、アルコール、ガソリンなどの有機溶剤を使用しないでください。

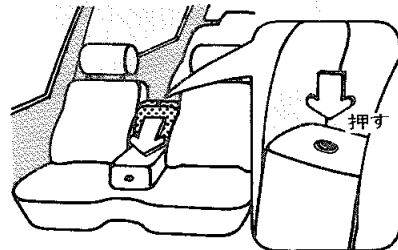
ヒーターおよびシート表面を損傷するおそれがあります。

中央アーム・レスト（ひじかけ）

前へ倒して、ひじかけとしてご利用ください。

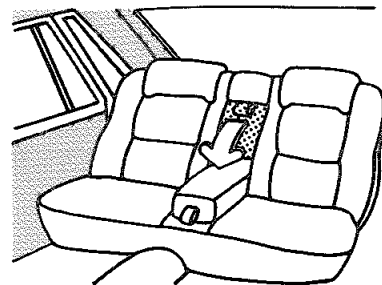
▶フロント・シート側

セミ・セパレート・シート車



ボタンを押して倒します。

▶リヤ・シート側*



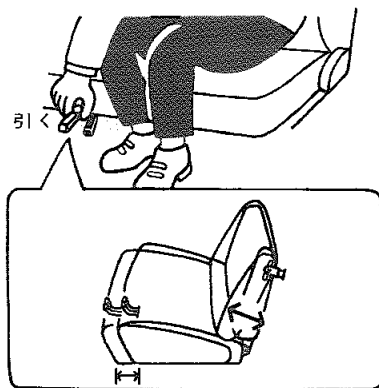
前へ倒して、ひじかけとしてご利用ください。

■リヤ・シート

▶リヤ・シート・リクライニング

(背もたれ角度調整)

セダンのグランデ車



- レバーを引いている間、シート・クッションを前方へ3段階移動させることができます。同時に、背もたれ下部が前方へ移動し、背もたれの角度が変わります。
- 調整後、シート・クッションを軽くゆさぶり、確実に固定されていることを確認します。

▶ヘッド・レスト (回転式)

グランデ車



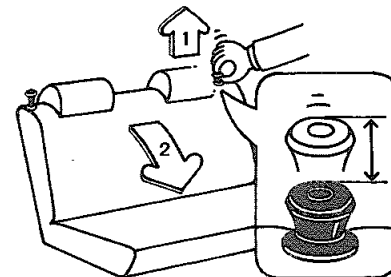
- ヘッド・レストの下部を引き上げると、ヘッド・レストの位置が上がり、同時に前へ出ます。

■荷室

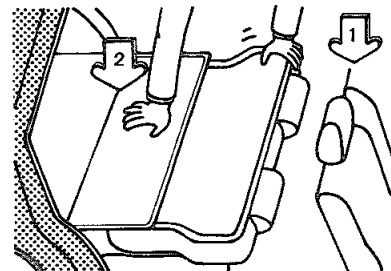
ワゴン

▶荷室の作り方

- 背もたれ固定ボタン(左右各1箇)の一方を引いて、背もたれを前に倒します。

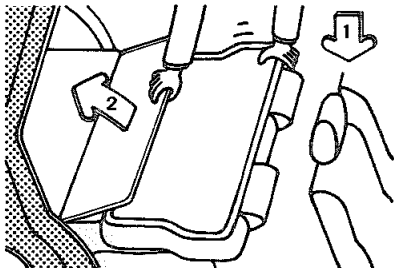


- 倒した背もたれを押えたまま、中央部の板をセットします。



▶ 背もたれを起こすには

1. 背もたれを押し、中央部の板を持ち上げます。

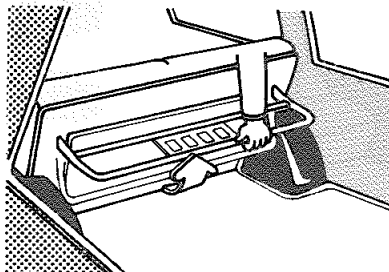


2. 背もたれを起こします。
3. 背もたれを軽くゆさぶり、確実に固定されていることを確認します。

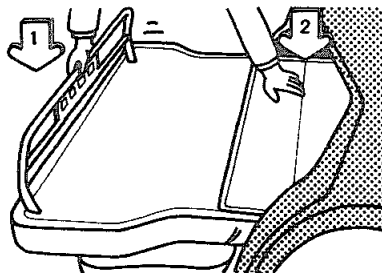
バン

▶ 荷室の作り方

1. ハンドルを引き上げ背もたれを倒します。

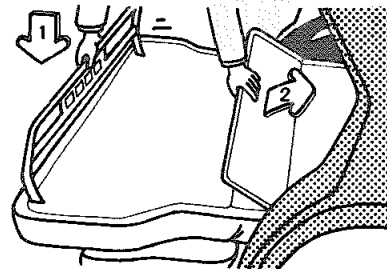


2. 倒した背もたれを押えたまま、中央部の板をセットします。



▶ 背もたれを起こすには

1. ハンドルを倒します。
2. 背もたれを押し、中央部の板を持ち上げます。



3. 背もたれを起こします。
4. 背もたれを軽くゆさぶり、確実に固定されていることを確認します。

シート・ベルト の装着

ドライバーと同乗者の安全を守るために、シート・ベルトが装備されています。シート・ベルトは正しく装着しないと効果が半減したり、危険な場合があります。次の使用方法、注意にしながらシート・ベルトの正しい取り扱いを身につけてください。

★走行前に必ずシート・ベルトを装着してください。

★腰部シート・ベルトは、必ず腰骨の位置に装着してください。軟らかい腹部にかけると万一のとき強い圧迫をうけ危険な場合があります。

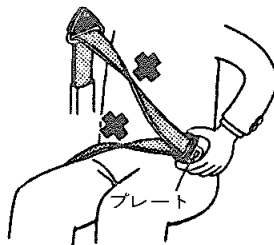
■フロント・シート・ベルト

▶緊急時固定式シート・ベルト

シート・ベルトは身体の動きに合わせて伸縮しますが強い衝撃で身体が前に倒れそうなどときには、ベルトが自動的にロックされ身体を固定します。

〈装着のしかた〉

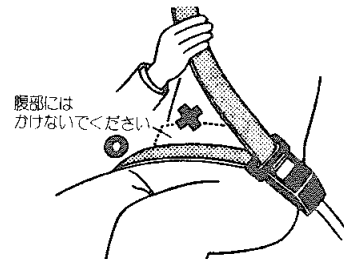
1. シートを調整し、正しい姿勢ですわります。
2. 巻き取り装置からプレートを持ってゆっくり引き出し、ねじれていないことを確かめます。



3. プレートをカチッと音がするまで確実にバックルに差し込みます。

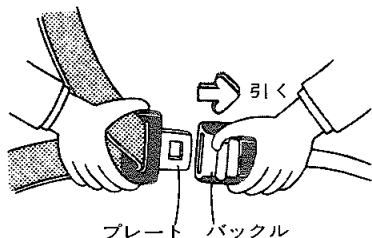


4. 腰部ベルトは必ず腰骨の位置にかかるとようにします。



<取りはずしかた>

1. バックルのレバーを引くとはずれます。



2. プレート側のベルトは自動巻き取り式ですので、ベルトをはずすと自動的に格納されます。
3. ベルトが自動的に格納されないときは、いったんベルトを引き出し、ねじれなどが無いことを確かめます。ベルトを手を持ちながらゆっくり巻き取らせてください。

■リヤ・シート・ベルト

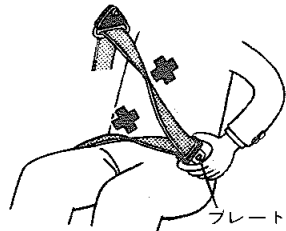
▶緊急時固定式シート・ベルト

セダンのグランデ車

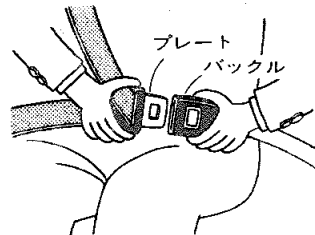
<装着のしかた>

シート・ベルトは身体の動きに合わせて伸縮しますが強い衝撃で身体が前に倒れそうときには、ベルトが自動的にロックされ身体を固定します。

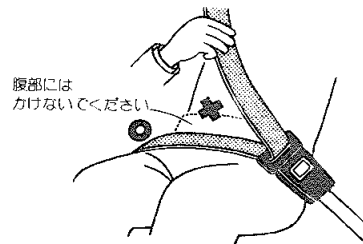
1. 巻き取り装置からプレートを持ってゆっくり引き出し、ねじれていないことを確かめます。



2. プレートをカチッと音がするまで確実にバックルに差し込みます。

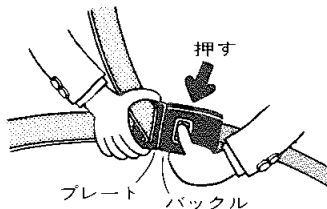


3. 腰部ベルトは必ず腰骨の位置にかかるようにし、肩ベルトを少し引いて腰部のゆるみがないようにします。



＜取りはずしかた＞

1. バックルのボタンを押すとはずれます。



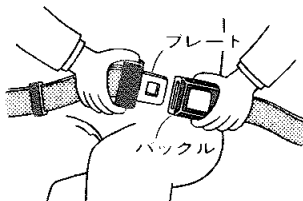
2. プレート側のベルトは自動巻き取り式ですので、ベルトをはずすと自動的に格納されます。
3. ベルトが自動的に格納されないときは、いったんベルトを引き出し、ねじれなどが無いことを確かめます。ベルトを手にもちながらゆっくり巻き取らせてください。

▶長さ調整式(2点式)シート・ベルト

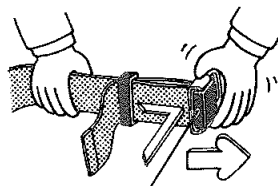
セダンのグランデ車を除く

＜装着のしかた＞

1. 正しい姿勢ですわります。
2. ベルトがねじれていないことを確かめてから、プレートをバックルに差し込みます。

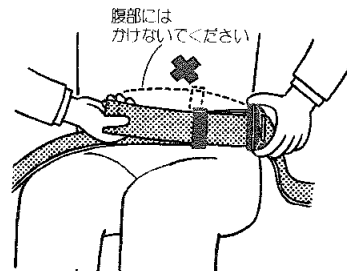


ベルトが短いときは、プレート側のベルトを下図の要領で伸ばします。

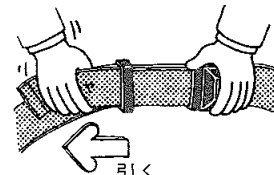


プレートとベルトを直角にしてプレートを引っ張ります。

3. ベルトは必ず腰骨の位置にかかるようにします。



下図のようにプレート側のベルトを引いてベルトのゆるみをなくします。



<取りはずしかた>

1. バックルのボタンを押すとはずれます。



2. はずしたベルトは、プレートを保ックルにはめておいてください。



1. フロント・シート・ベルトを装着した状態で、肩ベルトが首、あご、顔などに当たるようなお子様の場合は、万一のとき危険ですからリヤ・シートにすわり、リヤ・シート・ベルト(2点式)を装着してください。
また、1人ですわることのできない乳幼児の場合は、シート・ベルトを使用しないでください。
2. ベルトは1人用です。2人以上で1本のベルトを使用しないでください。
3. 妊娠中の女性や疾患のある方のシート・ベルト装着は、万一の場合腹部などに強い圧力を受けるおそれがありますので医師に相談のうえご使用ください。
4. ベルトのよごれは、中性洗剤を溶かしたぬるま湯を使いブラシをか

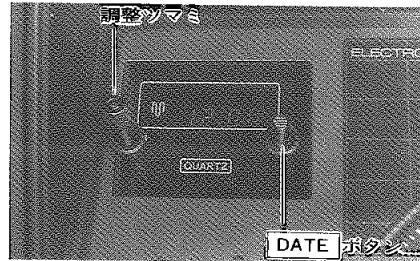
けて落としてください。薬剤などを使用するとベルトが弱くなり、万一のとき正常な働きをしないことがあります。

5. ベルトをドアなどではさまないようにしてください。万一のとき正常な働きをしないことがあります。
6. ベルト各部の損傷、作動状態を点検してください。
ほつれ、すり切れができたリ、金具部などが正常に作動しなくなった場合は、ベルトを交換してください。

室内装備の 使い方

■時計*

▶日づけ付き水晶式デジタル



1. エンジン・スイッチが ACC または ON の位置のときに時刻が表示されます。
2. エンジン・スイッチを LOCK の位置にすると表示は消えますが、時計はそのまま作動します。
3. ライト・スイッチが ON のときは減光して表示されます。
4. **DATE** ボタンを押すと約 6 秒間月日を表示します。

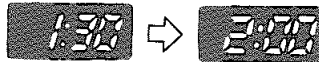
<時報に合わせるとき>

調整ツマミを手前に引っ張ると同時に、時刻は下記のように訂正されスタートします。

- 0～29分は切り下げて表示されます。



- 30～59分は切り上げて表示されます。



<“時”“分”調整>

調整ツマミを押したまま左へ回すと“時”表示、右へ回すと“分”表示が早送りされます。

★時刻調整時に、午前 (AM) と午後 (PM) を正しく選択しないと日づけ変更が正しく行なわれません。

<日づけ調整>

DATE ボタンを押して時計表示を日づけ表示にしている間調整ができます。

1. “月”調整

調整ツマミを押したまま左へ回すと“月”表示が早送りされます。

2. “日”調整

調整ツマミを押したまま右へ回すと“日”表示が早送りされます。

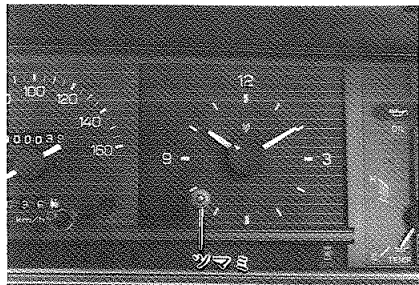
★日づけ表示は、2月の場合29日まで表示します。うるう年以外の際には調整してください。なお、2月以外の月は自動的に変更するため調整の必要はありません。

★一度電源が切れた (バッテリーをはずしたときなど) あと、電源が接続されると1月1日、1:00分にセットされますので、正しい月日、時刻に調整してください。

無断複製禁止

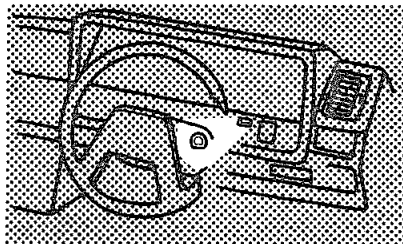
*印のついているものは巻末の装備品一覧表をご覧ください。

▶ 水晶式三針



時刻調整はツマミを引いたまま回します。

■ エンジン・キー照明 *



■ グランデ車

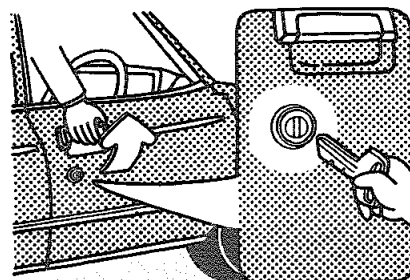
運転席ドア・ハンドルを引き上げると同時に、エンジン・キー照明が点灯します。ただし、ドアをとじてから約5秒後に消灯します。

■ グランデ車を除く

運転席ドアをあけるとエンジン・キー照明が点灯します。ただし、ドアをとじてから約5秒後に消灯します。

■ ドア・キー照明

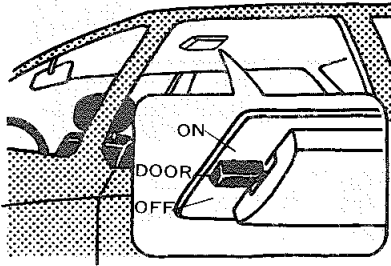
■ グランデ車



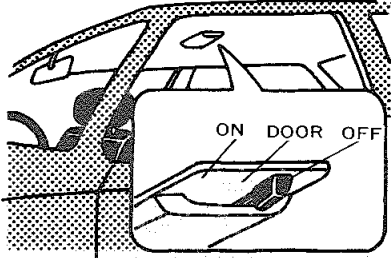
運転席ドア・ハンドルを引き上げると、ドア・キー照明が約5秒間点灯し、キー穴の確認が楽に行なえます。このとき、同時にエンジン・キー照明も点灯します。

■室内灯

グランデ車



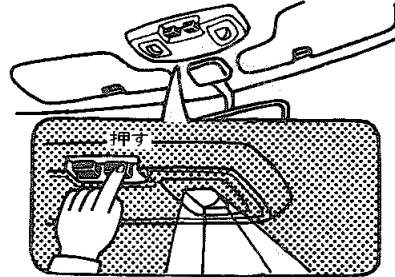
グランデ車を除く



- ON ドアの開閉に関係なく点灯します。
- DOOR ドアをあけたとき点灯し、とじると消灯します。
- OFF ドアの開閉に関係なく消灯します。

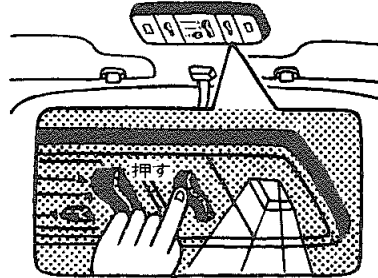
■フロント・スポット・ライト*

サン・ルーフ付き車を除く



スイッチ右側を押すと右側のライトが点灯します。もう一度押すと消灯します。左側も同様です。

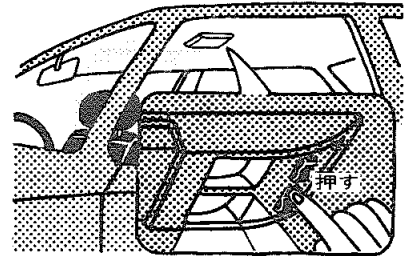
サン・ルーフ付き車



右側のスイッチを押せば右側のライトが、左側を押せば左側のライトが点灯します。

■リヤ・スポット・ライト

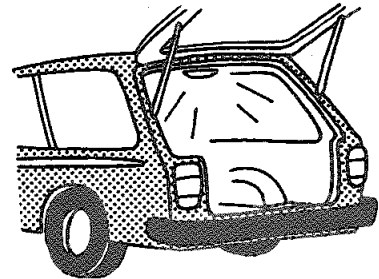
グランデ車(サン・ルーフ付き車を除く)



ライト・スイッチがONのときスイッチを押すと点灯します。

■バック・ドア灯

ワゴン/バン

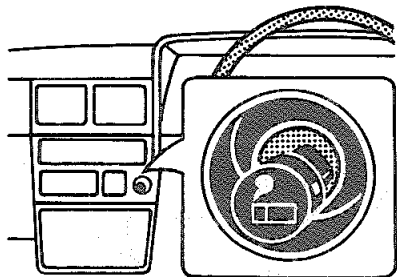


バック・ドアよりの天井にあります。ドアをあけたときに点灯します。

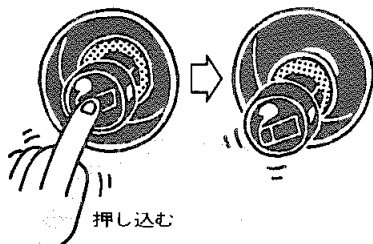
無断複製禁止

*印のついているものは巻末の装備品一覧表をご覧ください。

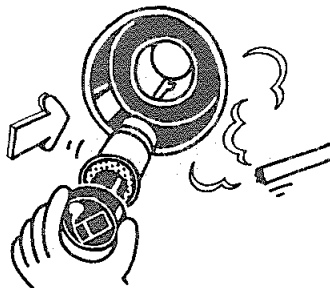
■ シガレット・ライター



1. エンジン・スイッチが ACC または ON のとき使用できます。
2. ツマミを押し込んだら、すぐ手をはなし、とび出すまで待ちます。



3. 使用後、ソケットに確実に差し込みます。



1. シガレット・ライターが過熱し、非常に危険なことがありますので次のことを厳守してください。
 - 押えつけたままにしない。
 - 他車のシガレット・ライターをソケットに差し込まない。
2. ソケットからは、湯わかし器など、トヨタ純正品以外の電気製品の電源を取り出さないでください。

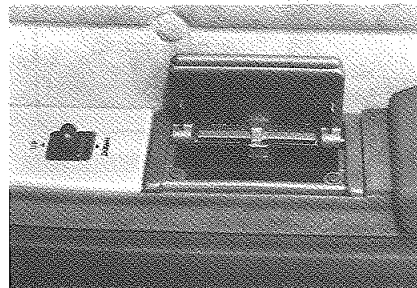
■ 灰皿

▶ フロント側



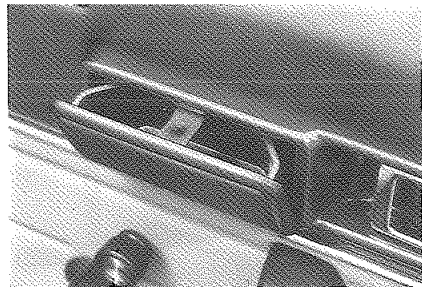
掃除をするときは、下へ押しながら引き出すと取りはずせます。

▶ リヤ側



掃除をするときは、灰皿のフタを上へ引き上げると取りはずせます。

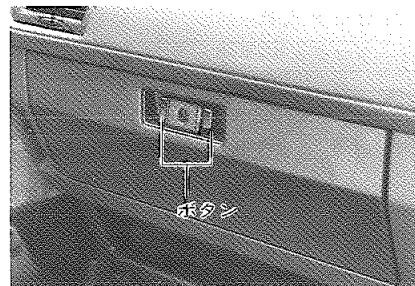
■グローブ・ボックス(小物入れ)



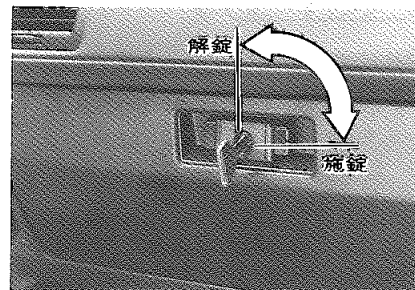
掃除するときは、タバコ消しを押さえたまま手前に引くと取りはずせます。



1. 使用後は確実にしめてください。
あけたままにするとタバコの火が他の吸いがらに燃えひろがり火災になるおそれがあります。
2. 灰皿の中に紙くずなどの燃えやすいものを入れないでください。
3. マッチ、タバコなどの火は消してから灰皿の中に入れてください。



1. ボタンを押すとひらきます。



2. キーを差し込んで右へ回し、キーを抜くと施錠できます。サブ・キーは使用できません。



グローブ・ボックスをあけたまま走行すると危険です。必ずしめてください。

▶グローブ・ボックス・ランプ

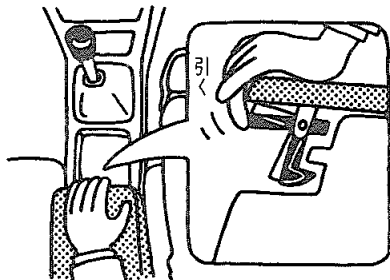
STD, DX車を除く

ライト・スイッチがONのときに、フタをあけるとグローブ・ボックス内のランプが点灯します。

■フタ付きコンソール・ボックス

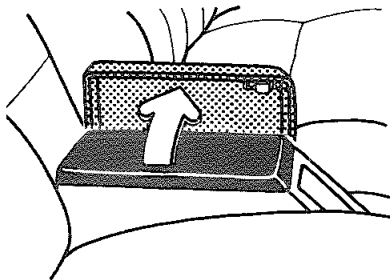
(小物入れ) *

マニュアル・トランスミッション車



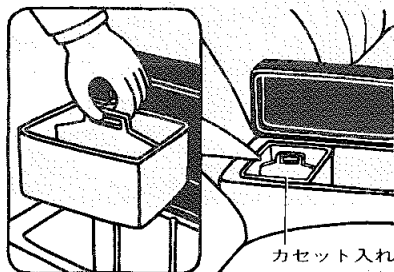
レバーを引くとフタをあけることができます。

オートマチック・トランスミッション車



▶カセット入れ

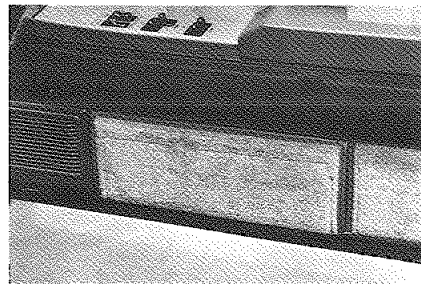
オートマチック・トランスミッション車



取りはずし可能なカセット入れがコンソール・ボックス内に取り付けられています。

■ドア・ポケット

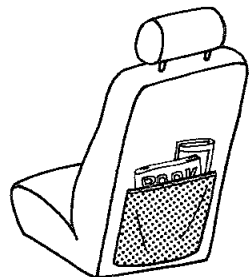
STD, DX車を除く



運転席ドア前方に備え付けてあります。

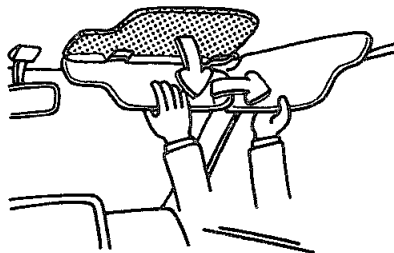
■背もたれポケット

STD, DX車を除く



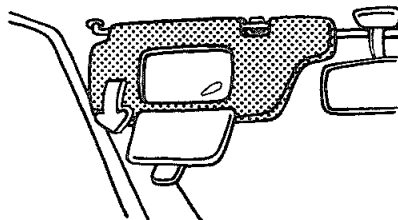
背もたれの裏側に付いています。
地図や雑誌などを入れると便利です。

■サン・バイザー(日よけ)



直射日光などで眩しいときに使用します。
フックからはずせば、側面に回すこともできます。

■バニティ・ミラー(化粧ミラー) *

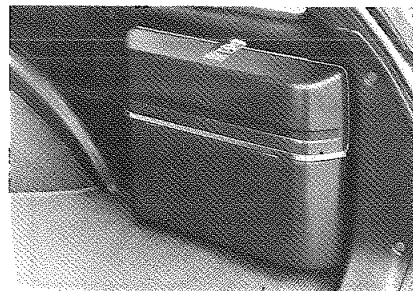


助手席サン・バイザーの裏面に付いています。

■クォーター・トリム・ボックス

(小物入れ)

ワゴン

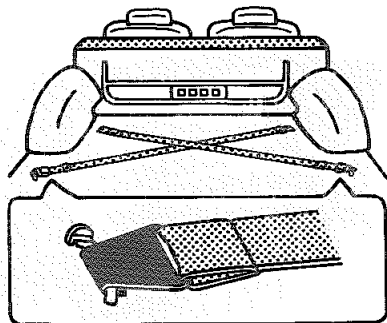


荷台右側に備えられています。
クォーター・トリム・ボックス専用の
キーで施錠できます。

① = 室内装備の使い方

■ 荷物固定ベルト*

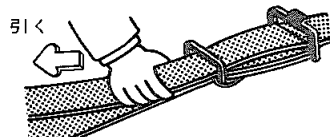
ワゴン/バン



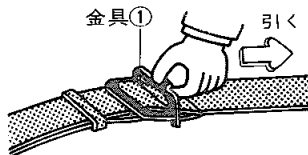
長尺物および移動しやすい荷物を固定するのに便利です。

▶ ベルトの調整

1. 締めるときはベルトを引きます。



2. ゆるめるときは金具①を持って引きます。



無断複製禁止

*印のついているものは巻末の装備品一覧表をご覧ください。

■クルーズ・コンピューター(走行情報表示装置) *

クルーズ・コンピューターは次の情報を提供します。

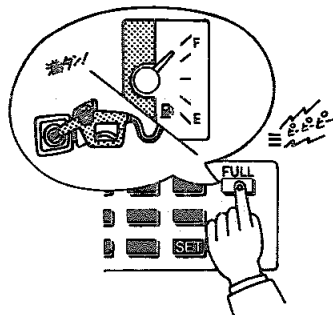
- 航続距離(残り燃料で走行できる距離)
- 消費した燃料の量
- 走行した距離(区間距離計の働き)
- 目的地への到着推定時刻
- 目的地までの残り距離
- 時計
- 時刻アラーム(覚えておきたい時間をコンピューターに記憶させることができる)

1. エンジン・スイッチがONまたはACCのとき作動します。

★エンジンを止めて長時間ACCのままにしておくとコンピューターが作動し続け、バッテリーあがりの原因になります。

★バッテリーを一度はずすと、コンピューターに記憶されている情報は消滅します。

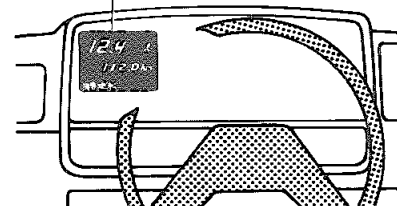
2. 燃料を満タンに補給したときは、必ず満タン(FULL)・キーを3秒以上押してください。



▶表示部

セタン

表示部



①メイン・ディスプレイ(操作部の表示項目選択キーを押すと、その項目を表示します。)

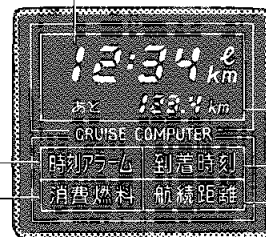
③時刻アラーム
(利用方法は75ページを参照してください。)

④消費燃料
(利用方法は72ページを参照してください。)

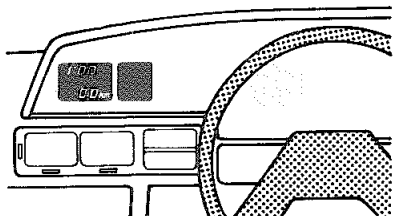
②サブ・ディスプレイ
(通常は区間距離計として作動し、操作部のARRIVEを押すと目的地までの残り距離を表示します。)

⑤到着時刻
(利用方法は73ページを参照してください。)

⑥航続距離
(利用方法は71ページを参照してください。)



ハードトップ



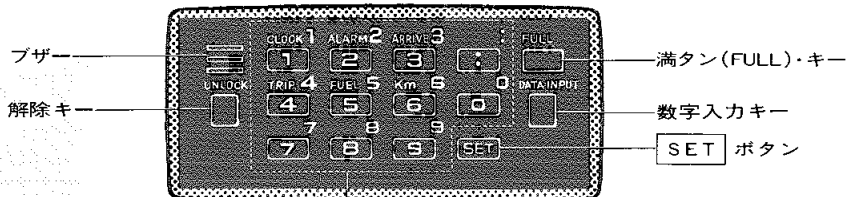
②

★エンジン・スイッチを一度OFFにしてからONにすると、OFFにする前に表示されていた項目が表示されます。

▶ 操作部



1. 表示項目選択キーは数字キーとしても利用できます。
 2. キーを操作するときは、ピツという音が聞こえるまで確実に押します。
 3. ライト・スイッチがONのとき、カバーをあけると照明されます。
- ★コンピューターを使用しないときは誤操作を防ぐためカバーをとじてください。



ブザー

解除キ

表示項目選択/数字キー

満タン(FULL)・キー

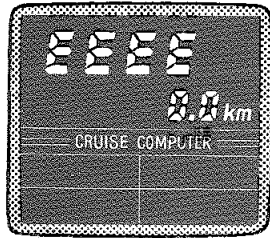
数字入力キー

SET ボタン

〈エラー表示〉

次のような場合に表示部が下図のようになります。

1. 操作手順を間違えたとき
2. 必要な情報を入力しなかったとき
3. 区間距離計が999.9kmを越えたとき
4. 消費燃料の積算値が99ℓを越えたとき



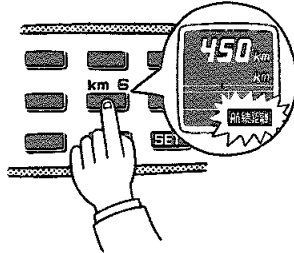
エラー表示のなおしかた

- 1, 2 の場合は、もう一度表示項目選択キーを押して最初からデータを入れなおしてください。
- 3, 4 の場合は、区間距離計を0にしてください。(72ページの▶走行した距離を知りたいときはを参照してください。)

▶航続距離を知りたいときは

1. km [6] キーを押します。

表示部に航続距離が表示されます。



★新車を受けとった際に、航続距離として表示される数字は、正しい数値を示していないことがあります。燃料を満タンにし、満タン・キーを押してからご使用ください。これによりコンピューターが燃料残量、燃費率などからあと何km走行できるかを計算します。

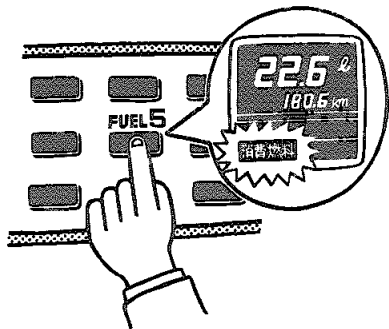
★表示される航続距離は、運転方法、道路状況などにより増減することがあります。



航続距離がまだ十分走行可能な表示をしていますが、燃料計がEに近づくか、燃料残量警告灯が点灯したら、早目に燃料を補給してください。

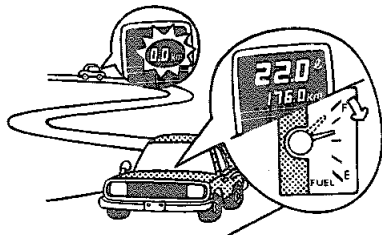
▶ 消費した燃料の量を知りたいときは

1. FUEL[5]キーを押します。



クルーズ・コンピューターの区間距離計を0にセットした時点から後に消費した燃料の量を表示します。

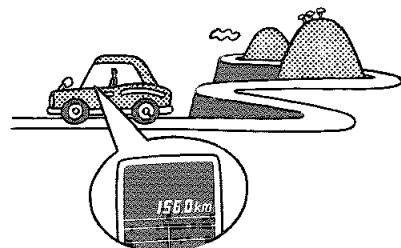
(区間距離計を0にセットする方法は次の▶ 走行した距離を知りたいときはの項目を参照してください。)



★消費燃料の数値が表示されるのは、燃料を0.1ℓ以上消費した時点からです。

★区間距離計を0にもどすと、同時に前回0にしてからの消費燃料の記憶も消えます。

▶ 走行した距離を知りたいときは



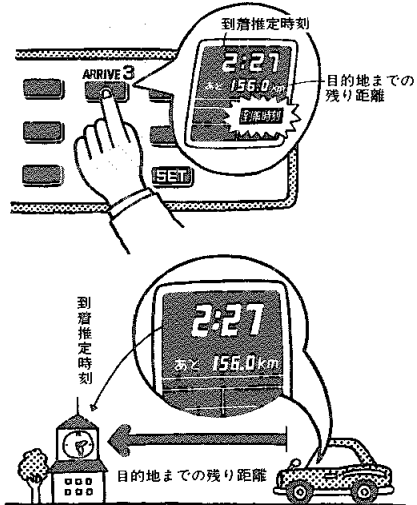
到着時刻 表示以外するとき、サブ・ディスプレイに走行した距離が表示されます。

◀ 区間距離計を0にするには ▶

手順	操作キー	表示部の表示
1	FUEL 5 5	156.0 km 消費燃料
2	TRIP 4 4	156.0 km

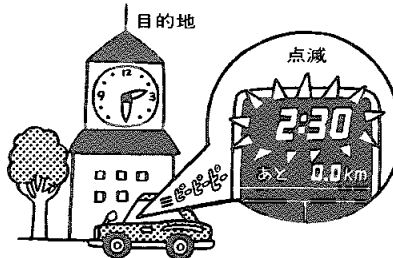
▶ 目的地への到着推定時刻および目的地までの残り距離を知りたいときは

1. 目的地までの距離をセットします。
(〈目的地までの距離のセット〉を参照してください。)
2. **ARRIVE** **3** キーを押します。



到着時刻はセットされた目的地までの距離と平均車速から推定し表示します。

3. 残り距離が0になると、到着時刻が点滅し、ブザーが鳴ります。また、このとき他の項目を表示していても到着時刻表示に自動的に切り替わります。
なお、到着推定時刻の表示は、平均車速によって順次修正されます。



4. 目的地までの距離は 999 km までセットできます。

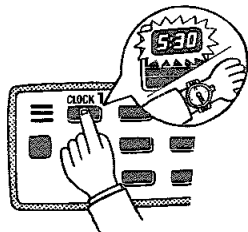
〈目的地までの距離のセット〉

(例：目的地までの距離が156kmある場合)

手順	操作キー	表示部の表示
1	ARRIVE 3 3	156.0 km 到着時刻
2	DATA INPUT	156.0 km 到着時刻
3	CLOCK 1 1	156.0 km 到着時刻
4	FUEL 5 5	156.0 km 到着時刻
5	km 6 6	156.0 km 到着時刻
6	SET	2:27 到着時刻

<途中で機能を解除する場合>

手順	操作キー	表示部の表示
1	ARRIVE3 3	
2	DATA INPUT	
3	SET	



▶時計として利用するときは

1. CLOCK [1]キーを押します。

2. 1:00~12:59までの12時間表示を行ないます。

<時刻修正のしかた>

[例: 11時33分を1時3分に修正する場合]

手順	操作キー	表示部の表示
1	CLOCK1 1	
2	DATA INPUT	

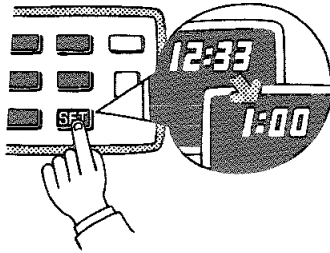
手順	操作キー	表示部の表示
3	CLOCK1 1	
4		
5	ARRIVE3 3	
6 (※)	SET	

(※)時計は [SET] ボタンを押した時点で、コロン(:)が点滅を始め、1時3分00秒から作動します。

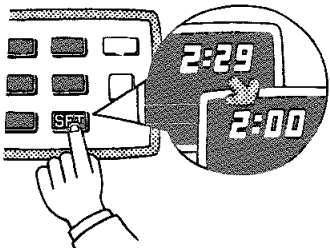
〈時報合わせのしかた〉

時報を合わせるときは、CLOCK[1]を押したあと [SET] ボタンを押します。

1. 30～59分は切り上げて表示されます。

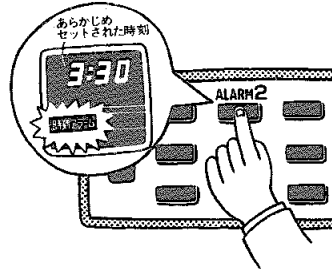


2. 0～29分は切り下げて表示されます。

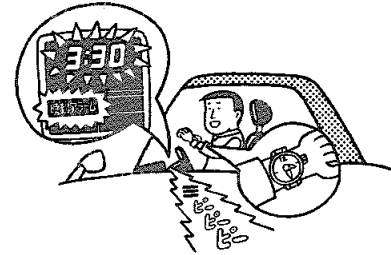


▶時刻アラームを利用するときは

1. 覚えておきたい時間をセットします。(76ページの〈時間のセット〉を参照してください。)
2. ALARM[2]キーを押します。



3. セットした時刻になると、他の項目を表示していても、[時刻アラーム]表示に自動的に切り替わり、約10秒間ブザーが鳴ります。



4. 時刻アラームは、1:00～12:59の範囲でセットすることができます。
5. 以降、時刻アラームを解除するかセットしなおさない限り、12時間ごとにアラームを続けます。(76ページの〈時刻アラームの解除〉を参照してください。)

<時間のセット>

[例：3時30分をセットする場合]

手順	操作キー	表示部の表示
1	ALARM2 2	
2	DATA INPUT	
3	ARRIVE3 3	
4	:	
5	ARRIVE3 3	
6	0 ⁰	

手順	操作キー	表示部の表示
7	SET	

<時刻アラームの解除>

手順	操作キー	表示部の表示
1	ALARM2 2	
2	DATA INPUT	
3	SET	

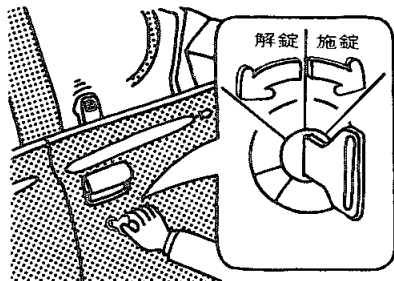


走行中の数字の入力（コンピューターに数字を記憶させる）は、必ず助手席の人が行なうようにしてください。

車体各部の 開閉

■フロント・ドア

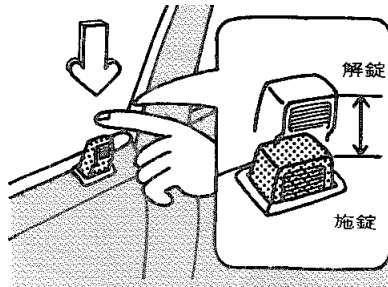
▶キーを使用したの施錠・解錠



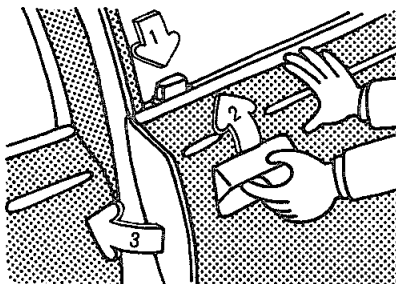
前に回すと施錠，うしろに回すと解錠になります。

▶キーを使用しないときの施錠・解錠
<施錠>

1. 車内からは，施錠ボタンを押すと施錠できます。

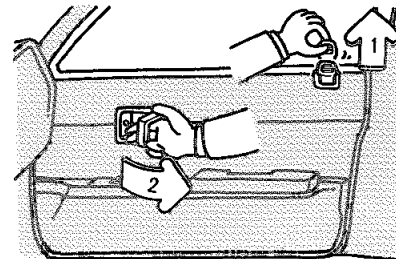


2. 車外からは，施錠ボタンを押し，ドア・ハンドルを引き上げたままドアをしめます。



<解錠>

1. 車内からは，施錠ボタンを引き出し，ドア・レバーを引くとドアがひらきます。ただし，運転席側ドアは，施錠ボタンが押し込まれたままだとドア・レバーを引くとドアがひらきます。



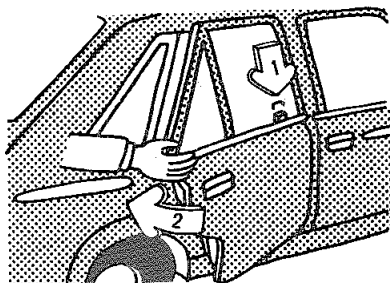
★注意

1. 車からはなれるときは、エンジンを止め、ドアを施錠してください。法的にも義務づけられています。
2. ドアをしめたときは、確実にしまっていることを確認してください。半ドアは危険です。

■リヤ・ドア

〈施錠〉

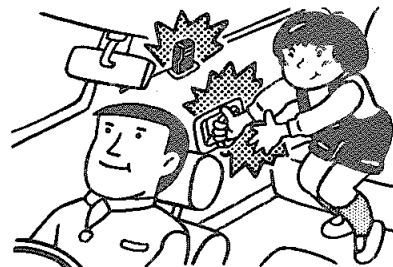
1. 車内からは、施錠ボタンを押すと施錠できます。
2. 車外からは、施錠ボタンを押し、ドアをしめると施錠できます。



〈解錠〉

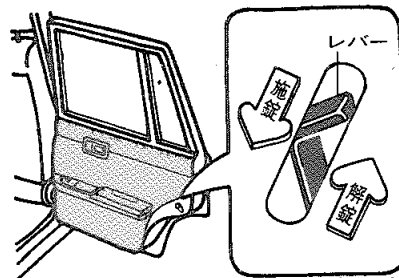
1. 施錠ボタンを引き出し、ドア・レバーを引くとドアがひらきます。

▶チャイルド・プロテクター（安全施錠装置）



車内からリヤ・ドアがお子様のいたずらなどでひらかないようにできる装置です。

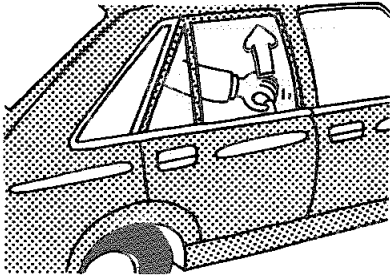
1. レバーを施錠側にしてドアをとじると、施錠ボタンの位置に関係なく、車内からドアをあけることはできません。



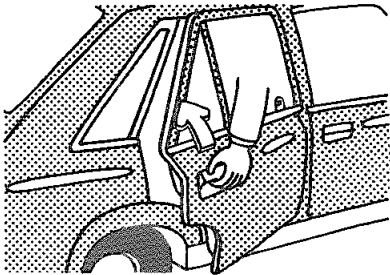
■電磁式ドア施錠装置*

〈ドアのあけかた〉

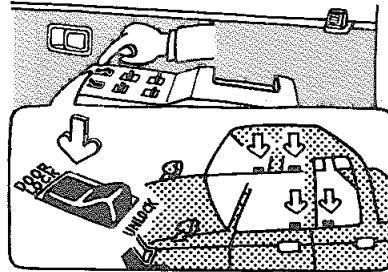
1. 施錠ボタンを引き出します。



2. ドア・ハンドルを引くとひらきます。

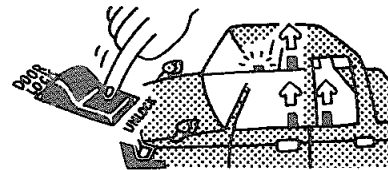


3. 後席にいる人があけるときは、ウインドウ・ガラスを下げ、窓から手を外に出してドア・ハンドルを引いてください。

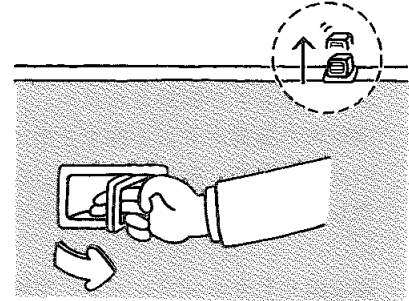


スイッチで全ドアの施錠・解錠が行なえます。

1. エンジン・スイッチに関係なく使用できます。
2. スイッチのLOCK(施錠)側を押すと全ドアが施錠され、UNLOCK(解錠)側を押すと運転席以外のドアが解錠されます。



3. 運転席のドアは、ドア・レバーを引くとドア・ロックが解錠され、ドアがひらきます。



4. スイッチを押し続けると作動しないことがあります。作動しないときは、いったんスイッチから指をはなし、押しなおしてください。

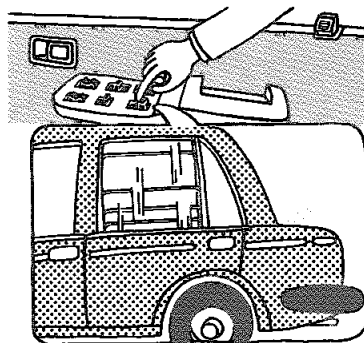
▶ 電磁式オート・ドア施錠装置

グランド車

電磁式ドア施錠装置に次の機能が加えられます。

1. 車速が約20km/h以上になると、自動的に全ドアが施錠されます。
2. 運転席の施錠ボタンを押すと全てのドアが同時に施錠されます。ただし、解錠するときは運動しません。
3. 運転席ドアをエンジン・キーで施錠または解錠すると、全てのドアが同時に施錠または解錠されます。

■ 電動ウインドウ *

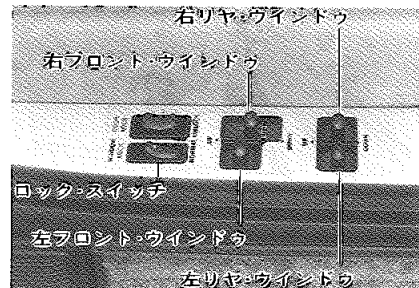


スイッチでウインドウ・ガラスの開閉が行なえます。

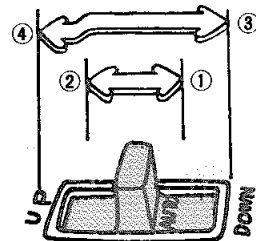
1. エンジン・スイッチがONのとき使用できます。

★ウインドウ・ガラスの開閉は、バッテリーあがりを防ぐため、エンジンがかかっているときに行なってください。

▶ 運転席スイッチ



1. 全ドアのウインドウ・ガラスの開閉が行なえます。
2. 運転席ドアのウインドウ・ガラスは自動的に全開、全閉をすることもできます。



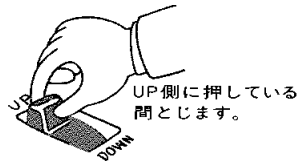
- 自動で全開するときは、スイッチを③の位置まで動かしてすぐ手をはなします。途中で止めたいとき

は、スイッチを②の位置にしてすぐ手をはなすと停止します。

●自動で全閉するときには、スイッチを④の位置まで動かしてすぐ手をはなします。途中で止めたいときは、スイッチを①の位置にしてすぐ手をはなすと停止します。

●スイッチを①の位置にしている間ひらき、②の位置にしている間とじます。スイッチから手をはなすと、その位置で停止します。

3. 助手席および後席のウィンドウ・ガラスの開閉は



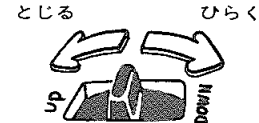
※スイッチから手をはなすと、ウィンドウ・ガラスの作動は停止します。

4. ロック・スイッチをLOCK側にすると



お子様を乗せているときなどにご利用ください。

▶ 助手席および後席スイッチ



※スイッチから手をはなすと、ウィンドウ・ガラスの作動は停止します。

1. 運転席スイッチに付いているロック・スイッチがLOCK側になっているときは、スイッチを押しても作動しません。



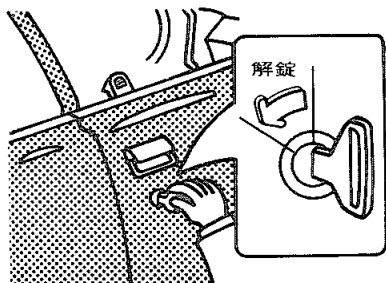
1. ウィンドウ・ガラスをとじるときに、手などはさまないよう注意してください。
2. 運転席スイッチと他のスイッチを同時に逆方向に動かさないください。

▶ ドア・キー作動ウインドウの使い方

グランド車

前述の電動ウインドウの機能に加え、乗車前にウインドウ・ガラスをあけたいとき、または降車後ウインドウ・ガラスをしめ忘れたときに、エンジン・スイッチをONにしなくても開閉を行なうことができます。

1. エンジン・キーを解錠位置まで回します。



2. 運転席ドアをあけます。
3. スイッチを操作すると開閉が行なえます。

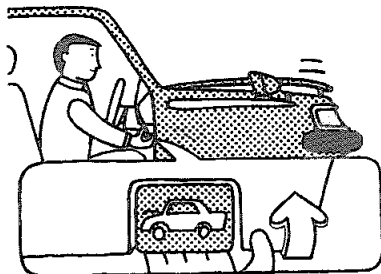
★ 1, 2の動作はどちらが先でもさしつかえありません。

★ 運転席ドアをしめるとウインドウ・ガラスの開閉はできません。

■ ボンネット

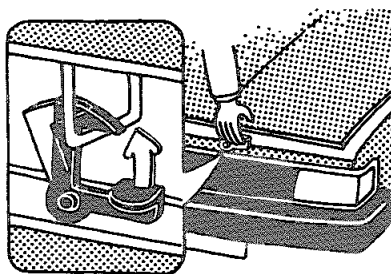
▶ あげかた

1. 計器盤右下に付いているレバーを引くと、ボンネットが少し浮き上がります。



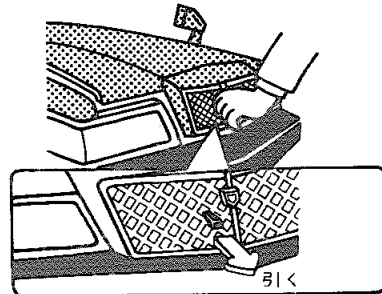
2. ハードトップを除く

ボンネットのすき間に手を入れ、ボンネット・ロックをはずします。



ハードトップ

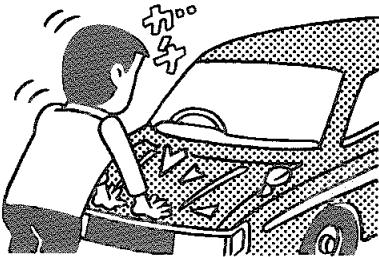
ツマミを引いて、ボンネット・ロックをはずします。



3. ツマミを引いたままボンネットをいっぱいあけます。

▶とじかた

1. ボンネットをとじ、前端をガチッという音がするまで押え付けるとロックされます。



2. ボンネット先端を持ち上げてガタついていないことを確認してください。

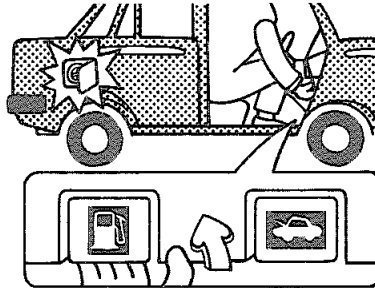


ボンネットが確実にロックしていないままで走行すると非常に危険です。走行前に、確実にロックしていることを確認してください。

■燃料タンク・キャップ

▶カバーのあけかた

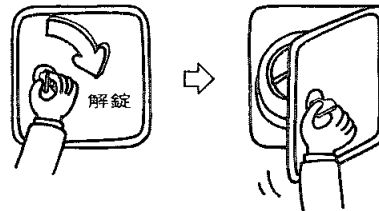
〈車内から〉—燃料補給口オープナーで*



1. 計器盤右下のレバーを引き上げるとカバーがひらきます。

〈車外から〉—キーを使用して

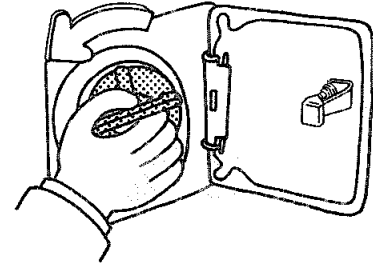
STD車, パン



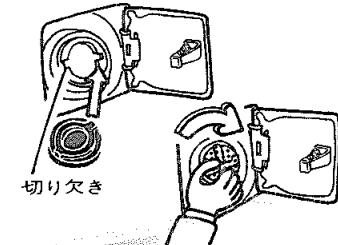
1. キーを差し込み右に回したまま手前に引くとひらきます。

▶キャップについて

1. キャップは左に回して手前に引くとはずれます。



2. 燃料の補給が終わったら、キャップを燃料補給口の切り欠きに合わせて差し込み、右にいっぱい回します。

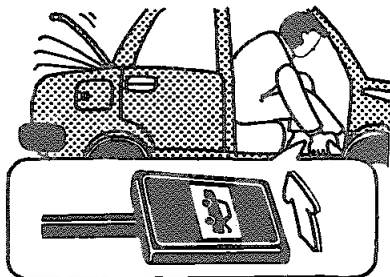


燃料補給のときは、必ずエンジンを停止してください。

■トランク

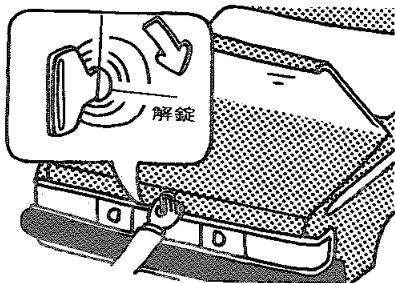
▶あけかた

＜車内から＞トランク・オープナーで*



1. 運転席右下のレバーを引き上げるとトランクがあきます。

＜車外から＞キーを使用して



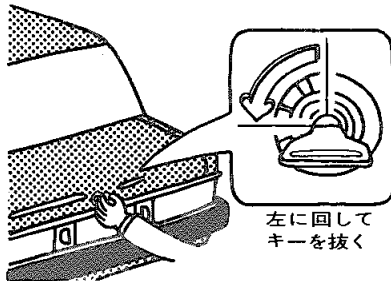
1. キーを差し込み右に回すとあきます。
2. サブ・キーであけることはできません。

▶とじるとき

上から手で押えつけてロックします。

▶トランクに貴重品がはいつているとき

1. キーを差し込み左に回して、キーを抜くとトランク・オープナーであけることができません。



2. 盗難防止のため、駐車場などでキーを預けるときはサブ・キーを渡してください。

▶トランク灯*

トランクをあけると点灯し、とじると消灯します。

★キーをトランク内に置き忘れないようにしてください。

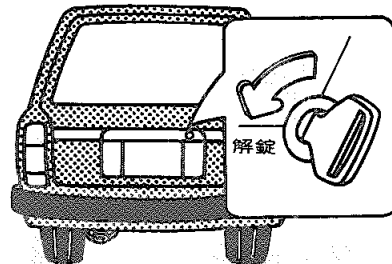
無断複製禁止

■バック・ドア

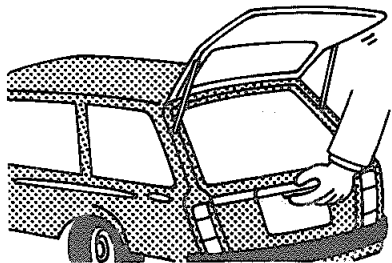
ワゴン/バン

▶あけかた

1. キーを差し込み左に回すと解錠できます。



2. レバーを引いたままバック・ドアを持ち上げるとあきます。



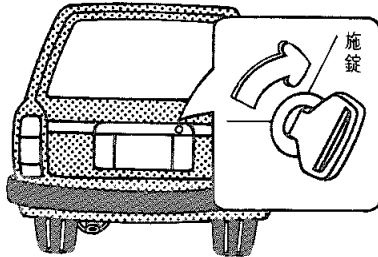
★いっぱい持ち上げて降下しないことを確認してください。

3. バック・ドアをあけると、バック・ドア灯が点灯します。

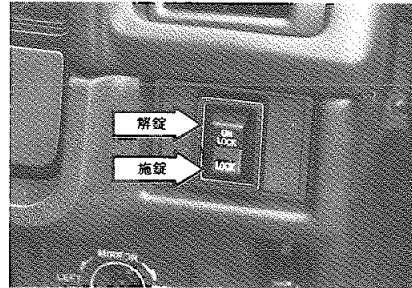
*印のついているものは巻末の装備品一覧表をご覧ください。

▶ とじかた

1. バック・ドアをおろして押えつめます。
- ★とじるときに、他の人の手などをはさまないように注意してください。
2. とじると、バック・ドア灯が消灯します。
3. バック・ドア・ハンドルを持って軽くゆきぶり、確実にロックされていることを確認してください。
4. キーを差し込み右に回すと施錠できます。



▶ 電磁式バック・ドア施錠装置*



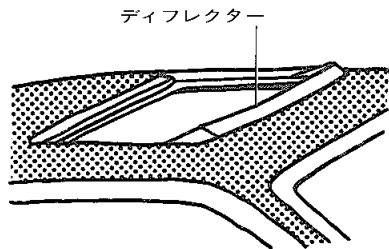
スイッチでバック・ドアの施錠・解錠が行なえます。

1. エンジン・スイッチに関係なく使用できます。
2. スイッチのLOCK (施錠) 側を押すと施錠され、UNLOCK (解錠) 側を押すと解錠されます。
3. スイッチを押し続けると作動しないことがあります。作動しないときは、いったんスイッチから指をはなし、押しなおしてください。



1. 確実にとじていることを確認してください。走行中にあくと、荷物などが落ちて非常に危険です。
2. 荷台には人を乗せないでください。万一の場合、ケガをするおそれがあります。

■ サン・ルーフ*

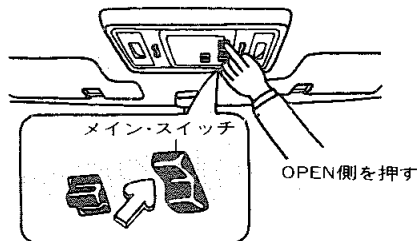


スイッチでサン・ルーフの開閉が行なえます。

1. エンジン・スイッチがONのとき使用できます。
2. 万一、スイッチを押しても動かない場合は、手動で操作することができます。
(87ページの▶スイッチを押しても作動しないときを参照してください。)

▶ あけるときの

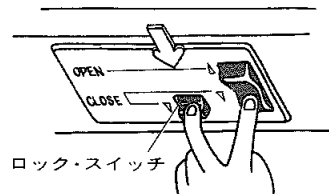
1. メイン・スイッチのOPEN側を押します。



2. メイン・スイッチから手をはなすと停止します。
3. サン・ルーフをあけると、室内への風の巻き込みを防ぐディフレクター（整流板）が自動的に上がります。

▶ とじるとき

1. ロック・スイッチを押したまま、メイン・スイッチのCLOSE側を押します。

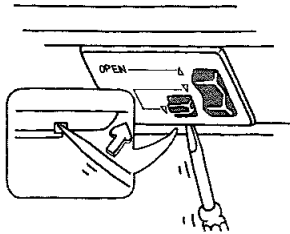


ロック・スイッチを押したままCLOSE側を押す。

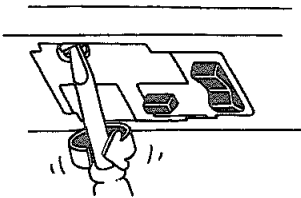
- ★とじるとき、手などははさまないように十分注意してください。
2. メイン・スイッチから手をはなすと停止します。

▶スイッチを押しても作動しないとき

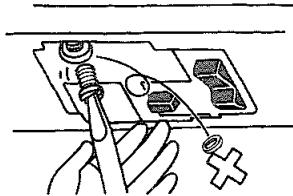
1. スwitchのカバーを⊖ドライバーで取りはずします。



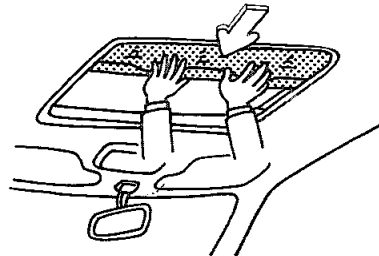
2. 駆動軸下部のネジを⊖ドライバーで取りはずします。



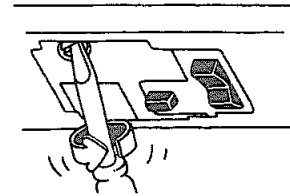
★ネジを取りはずすときに、ワッシャーおよびシムを紛失しないよう注意してください。



3. 手でサン・ルーフをディフレクターの近くまで動かします。

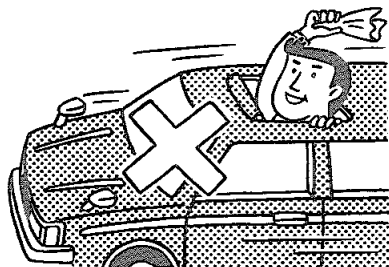


4. ⊖ドライバーで駆動軸を回し、完全にとじます。

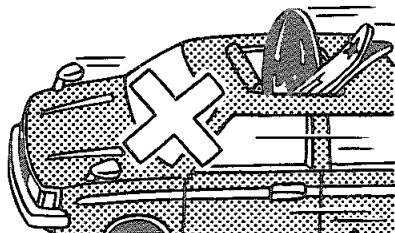




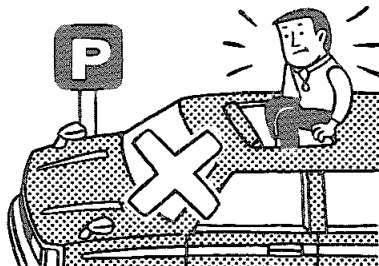
1. サン・ルーフが全開、全閉したときは、スイッチから手をはなしてください。押し続けると故障の原因になります。
2. 走行中は危険ですから、開口部から頭や手などを出さないでください。



3. 開口部から荷物がはみでないようにしてください。



4. 開口部に腰かけないでください。



5. 車からはなれるときや洗車時には、完全にとじていることを確認してください。

